

久慈市埋蔵文化財調査報告書 第14集

久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ

1992. 3

岩手県久慈市教育委員会

序

先人の築いた文化遺産は、その地方の歴史を解明するうえで貴重なものです。

遺跡など、地中に埋蔵されている文化遺産は埋蔵文化財と総称されます。

近年、各種開発による土木工事等に伴い、埋蔵文化財の発掘調査が増加しています。

この度、遺跡の分布状況、内容等を把握し、遺跡台帳を整え、開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るため、市内詳細分布調査を4年次計画で実施することとしました。

平成3年度は4年次計画の3年目にあたり、久慈・大川目町地区を主な対象として調査を実施しました。

本書はその成果をまとめたものであり、今後、埋蔵文化財保護を進めるうえでの一助となれば幸いです。

平成4年3月

久慈市教育委員会

教育長 長 内 俊 雄

例 言

1 本書は、平成3年文化財保護事業として国庫及び県費補助を受けて久慈市教育委員会が実施した遺跡詳細分布調査の報告書である。

2 調査は久慈市教育委員会が主体となり実施した。

3 調査体制は次のとおりである。

事務局 社会教育課長 米内 幹雄
郷土文化係長 大湊 清信
文化財調査員 千葉 啓藏

調査員 千葉 啓藏

屋外作業員 神田 喜美栄 西川 ヨシ

屋内作業員 神田 喜美栄 西川 ヨシ

4 土層の色調観察は『新版標準土色帖』（小川正忠、竹原秀雄1976）によった。

5 石質鑑定は新田康夫氏に依頼した。

6 調査にあたり、高谷泰道氏、藤森敬三氏、小倉貫一氏より助言を得た。また、藤森重喜氏、工藤常夫氏、山田茂氏より資料の借用について協力を得た、記して感謝したい。

7 本書の編集、原稿執筆、図版作成、写真撮影等は千葉が担当した。

8 調査に関する資料は久慈市教育委員会が一括して保管してある。

目 次

序	
例 言	
第I章 分布調査の概要	1
第II章 調査結果	4
1 踏査結果	
(1) 門前・天神堂地区	4
(2) 寺里・沢里・畑田地区	9
(3) 枝成沢地区	17
(4) 大川目町長久保地区	24
(5) 大川目町新町・外里・山口地区	26
(6) 大川目町荒津前・水無地区	41
(7) 大川目町三日町地区	45
(8) 川貫・八日町地区	47
2 試掘調査結果	
(1) 久慈城跡の概要	50
(2) 調査の概要	52
(3) 基本層序	52
(4) 調査結果	56
(5) ま と め	61

図 版 目 次

第1図	分布調査対象範囲図	2
第2図	門前・天神堂地区遺跡分布図	5
第3図	門前・天神堂地区表採遺物	6
第4図	寺里・沢里・畑田地区遺跡分布図	10
第5図	寺里・沢里・畑田地区表採遺物(1)	12
第6図	寺里・沢里・畑田地区表採遺物(2)	13
第7図	寺里・沢里・畑田地区表採遺物(3)	14
第8図	枝成沢・広野・中崎地区遺跡分布図	18
第9図	枝成沢・広野・中崎地区表採遺物(1)	20
第10図	枝成沢・広野・中崎地区表採遺物(2)	21
第11図	枝成沢・広野・中崎地区表採遺物(3)	22
第12図	大川目町長久保地区表採遺物	24
第13図	大川目町長久保地区遺跡分布図	25
第14図	大川目町新町・外里・山口地区遺跡分布図	27
第15図	大川目町外里地区表採遺物(1)	29
第16図	大川目町外里地区表採遺物(2)	30
第17図	外里遺跡採集遺物(1)	32
第18図	外里遺跡採集遺物(2)	33
第19図	外里遺跡採集遺物(3)	34
第20図	外里遺跡採集遺物(4)	35
第21図	外里遺跡採集遺物(5)	36
第22図	外里遺跡採集遺物(6)	37
第23図	外里遺跡採集遺物(7)	38
第24図	外里遺跡採集遺物(8)	39
第25図	大川目町荒津前・水無地区遺跡分布図	42
第26図	大川目町荒津前・水無地区表採遺物	44
第27図	大川目町三日町地区遺跡分布図	45
第28図	川貫地区表採遺物	47
第29図	川貫・八日町地区遺跡分布図	48
第30図	久慈城跡付近地形図	51
第31図	久慈城跡地形測量図	53
第32図	調査区配置図及び1調査区	55
第33図	2調査区	57
第34図	3・4調査区	58
第35図	久慈城跡出土遺物	62
第36図	久慈城跡出土参考資料	67

写真図版目次

第1図版	門前・天神堂地区航空写真	7
第2図版	門前・天神堂地区表採遺物・遺跡	8
第3図版	沢里・畑田地区航空写真	11
第4図版	寺里・沢里・畑田地区表採遺物(1)	14
第5図版	寺里・沢里・畑田地区表採遺物(2)	15
第6図版	寺里・沢里・畑田地区遺跡	16
第7図版	広野地区航空写真	19
第8図版	枝成沢・広野・中崎地区表採遺物	22
第9図版	枝成沢・広野・中崎地区遺跡	23
第10図版	大川目町長久保地区表採遺物・遺跡	24
第11図版	大川目町新町地区航空写真	28
第12図版	大川目町外里地区表採遺物・新町・外里地区遺跡	31
第13図版	大川目町外里遺跡採集遺物	40
第14図版	大川目町荒津前・水無地区航空写真	43
第15図版	大川目町荒津前・水無地区表採遺物・遺跡	44
第16図版	大川目町三日町地区航空写真遺跡	46
第17図版	川貫・八日町地区航空写真・表採遺物・遺跡	49
第18図版	久慈城跡出土遺物	63
第19図版	久慈城跡(1)	64
第20図版	久慈城跡(2)	65
第21図版	久慈城跡(3)	66

第I章 分布調査の概要

岩手県久慈市は北上山地北東部に位置する。経緯度は、東経 141度38分～141度52分、北緯40度00分～40度17分である。広さは、東西21km、南北33km、面積は325,66km²である。九戸郡種市町・大野村・山形村・野田村及び下閉伊郡岩泉町に接し、東は太平洋に面する。久慈湾に注ぐ久慈川、長内川、夏井川流域、野田湾に注ぐ宇部川流域に主な集落が形成され、市域の約82%が山林原野で、気候は夏は涼しく、冬は温暖である。人口は約4万人である。

久慈市内においては、現在約200箇所の遺跡が確認されている。主に、畑地などに利用されている箇所において遺跡の所在が確認されているが、山林地が大半を占めているため、未確認の遺跡が多く存在するものと予想される。

近年、当市においても各種開発が急増しており、それらに伴う発掘調査件数も増加している。これらの各種開発と埋蔵文化財保護との調整に資するため、遺跡台帳を整備し、遺跡の保護を図ることを目的とし、当市教育委員会では、平成元年度から国庫補助及び県費補助を導入し遺跡詳細分布調査を実施している。

平成元年度は、侍浜町本波・妻生地区、夏井町半崎・田中・閉伊口・宇津目・鼻館・大崎地区、源道・旭町地区を、平成2年度は、長内町地区、柏崎地区及び小久慈地区を対象地として、分布調査を実施した。

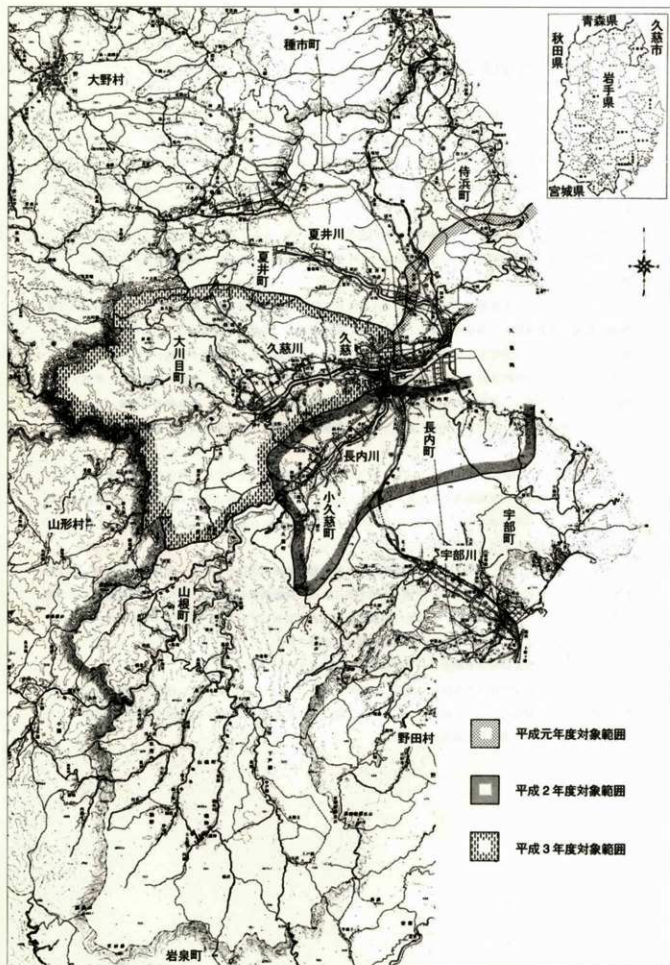
平成3年度は、門前・天神堂・寺里・沢里・畑田・枝成沢・川貫・大川目町地区を対象に分布調査を実施した。(第1図)

今年度の分布調査の結果、対象地において、周知の遺跡24箇所に加え、新たに12箇所の遺跡が発見された。なお、これまで埋蔵文化財包蔵地として知られていたにもかかわらず、遺跡台帳に未登録であった遺跡については、新発見として取り扱うこととした。山林地については遺跡の所在確認が不可能な箇所もあったため、対象地区内における遺跡数はさらに増加するものと思われる。

今回の対象地区内には、寺里I遺跡、久慈城跡の久慈市指定史跡が所在している。寺里I遺跡については昭和41年及び42年に岩手県立久慈高等学校郷土史研究部によって発掘調査がなされ、古代の竪穴住居跡4棟が検出されている。また、久慈城跡は、これまで発掘調査がなされておらず、その内容が不明な点が多かったが、今回の試掘調査によって柱穴跡が検出され遺構の存在が確認された。

調査の結果は、遺跡詳細分布調査カードに記載し、市教育委員会にて保管している。

なお、久慈市は昭和29年11月3日に久慈町、長内町、大川目村、山根村、夏井村、侍浜村、宇部村の2町5村が合併して、市制施行がなされ現在に至っている。遺跡分布図を作成する際に各地区の区分を次ぎのとおりとして取り扱ったので表としてあらわしておく。



第1図 分布調査対象範囲図

大 区 分	小 区 分					
久 慈 地 区	川貫	西の沢	荒町	八日町	十八日町	二十八日町
	中町	新町	巽町	柏崎	本町	川崎町
	駅前	表町	中の橋	田屋	新井田	湊町
	源道	旭町	京の森	門前	新中の橋	天神堂
	栄町	寺里	畑田	沢里	枝成沢	津内口
	碁石	広野	中崎			
小久慈町地区	古山	誂子	横合	田高良	鉄山	堀内
	日吉町	白山	川代	和野	岸里	岩瀬張
	上日当	中里	下日当	大沢田	秋葉	柏木
	幸町					
長内町地区	新築町	田高	上長内	新長内	広美町	中長内
	下長内	元木沢	平沢	玉の脇	二子	大尻
大川目町地区	生出町	仲小路	新丁	千草	三日町	砂子
	森	山口	外里	田子内	中田	新町
	田中	神成	長久保	根森	水無	荒津前
	馬内	根井	滝			
夏井町地区	川代	大芦	中崎	門の沢	富原	蟹屋敷
	沢山	切屋田	国坂	小田	生平	葡萄峰
	夏井	蕪田	黒沼	早坂	野中	大崎
	田沢	駅前	大湊	鼻館	住吉	閉伊口
	半崎	板橋	田中	宇津目	鳥谷	国丹
	菱倉					
侍浜町地区	角柄	堀切	砂沢	長崎	高家	桑畑
	外屋敷	本町	向町	北野	保土沢	横沼
	白前	本波	麦生			
宇部町地区	小倉	大渡	長坂	馬寄	大畑	滝の沢
	和野	北の越	日向	町	田子沢	地京沢
	中田	山屋敷	川原屋敷	谷地中	山田	大沢
	久喜	三崎	小袖	小袖沢	館石	
山根町地区	下戸鎮	下野	馬越	中戸鎮	赤間立	上戸鎮
	玉沢	端神	橋沢	円館	大久保	清水川
	徳部	細野	野頭	細工藤	塚宗	村井
	千足	葛形	浅小沢	木売内	橋場	保礼羅
	高根	竹倉部	遠川	檜の木	草木	小田瀬
	川又	馬渡	虫豆	横倉	相沢	長坂
	戸鎮沢	深田	岩脇	大石		

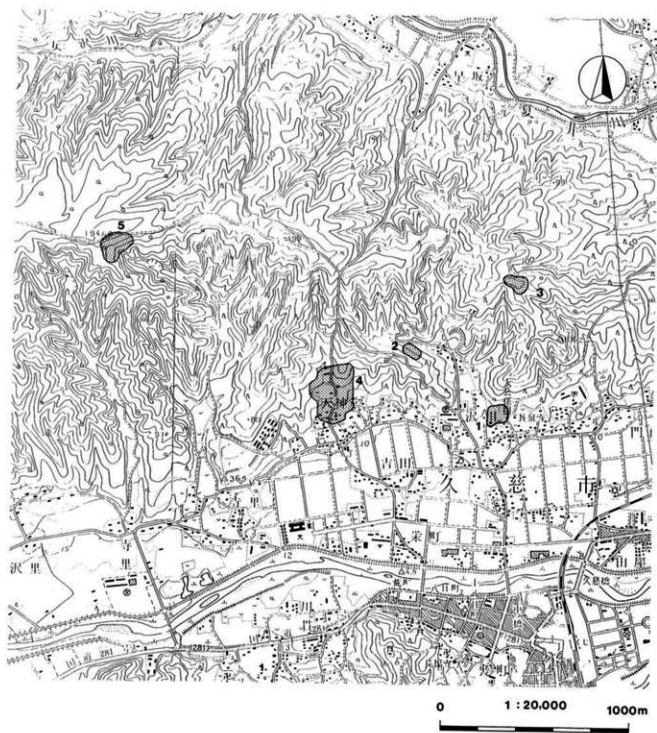
第Ⅱ章 調査結果

1 踏査結果

(1) 門前・天神堂地区

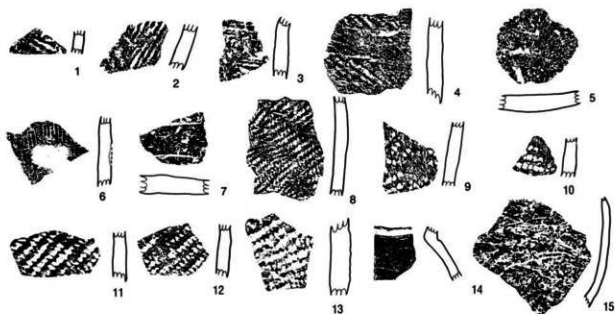
門前・天神堂地区は、久慈川と夏井川に挟まれ東側に延びる丘陵の南側斜面に相当する。丘陵は久慈川と夏井川の支流によって開析されているが、部分的に海岸段丘が残っており、その海岸段丘面に遺跡が立地する。主に丘陵裾部の低位段丘面に遺跡は立地するが、丘陵頂部においても遺物の散布が認められる。しかしながら丘陵頂部は、開析の進行が著しく、遺物の散布は認められるものの、遺跡としての規模は大きくないものと推定される。

- 門前Ⅰ遺跡** 門前Ⅰ遺跡は、北から南に下る標高約25mの緩斜面に立地する。現況は畑地及び宅地である。縄文土器、土師器が表採される。
- 門前Ⅱ遺跡** 門前Ⅱ遺跡は、北側を沢が南東方向に流れており、南東方向に延びる小丘陵の北斜面に遺跡が立地する。標高は約60mである。現況は山林であるが、部分的に土取りされており、縄文土器が表採される。
- 門前Ⅲ遺跡** 門前Ⅲ遺跡は、久慈川と夏井川に挟まれた丘陵頂部に立地する。標高は約130mである。平坦面は少なく遺跡の規模も小さいものと推定される。縄文土器が表採される。
- 天神堂遺跡** 天神堂遺跡は、北から南に下る標高約20～50mの緩斜面に立地する。沢が遺跡内を南流しており、主に沢の東側が遺跡の主体と推定される。現況は畑地及び宅地等である。縄文土器、土師器が表採される。
- 天神堂Ⅱ遺跡** 天神堂Ⅱ遺跡は、久慈川と夏井川に挟まれた丘陵頂部に立地する。標高は約190mである。開析が進行しているものの、緩やかな地形が認められる。遺跡の規模は小さいものと推定される。現況は山林等で、縄文土器、土師器が表採される。

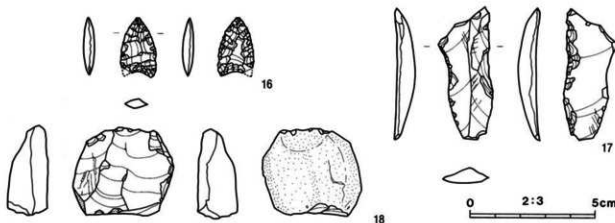


番号	遺跡名	県道跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	門前Ⅰ遺跡	J F 29.1357	散布地	縄文土器(後期)、土師器(奈良)	門前第1地割	新規
2	門前Ⅱ遺跡	J F 29.1322	散布地	縄文土器(後期)	門前第1地割	新規
3	門前Ⅲ遺跡	J F 29.0388	散布地	縄文土器(後期)	門前第1地割	新規
4	天天堂遺跡	J F 29.1237	集落跡	縄文土器(中期)、土師器(奈良)	天天堂第34地割	
5	天天堂Ⅱ遺跡	J F 29.0165	散布地	縄文土器、土師器(平安)	天天堂第34地割	新規

第2図 門前・天天堂地区遺跡分布図



0 1:2 5cm



番号	遺跡名	器種	文様	備考	写真図版
1	門前Ⅰ遺跡	縄文土器深鉢	L.R.単節		第2図版4
2	＊	縄文土器深鉢	L.無節		第2図版2
3	＊	縄文土器深鉢	L.無節		第2図版3
4	＊	縄文土器深鉢	R.無節		第2図版1
5	＊	土器器坏	外面ナデ、内面雑なミガキ	内黒処理	第2図版6
6	＊	土器器蓋	外面刷毛目、内面ヘラナデ		第2図版5
7	＊	土器器蓋	木葉肌		第2図版7
8	門前Ⅱ遺跡	縄文土器深鉢	L.R.単節		第2図版8
9	＊	縄文土器深鉢	L.R.単節		第2図版10
10	＊	縄文土器深鉢	L.R.単節		第2図版9
11	門前Ⅲ遺跡	縄文土器深鉢	R.L.単節		第2図版11
12	＊	縄文土器深鉢	R.L.単節		第2図版12
13	天神堂遺跡	縄文土器深鉢	L.R.単節		第2図版13
14	＊	土器器蓋	外面ミガキ、内面ナデ		第2図版14
15	天神堂Ⅱ遺跡	土器器蓋	外面ナデ、内面ナデ		第2図版15

計測値、重量の欄の()内の数値は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形質	計測値(単位cm)			重量 (単位g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
16	門前Ⅰ遺跡	石鏝	凹基無茎	2.4	1.5	0.4	(1.3)	硬質頁岩	第2図版16	
17	門前Ⅰ遺跡	二次加工が認められる刮片	縦長刮片	5.3	2.2	0.8	6.3	硬質頁岩	第2図版17	
18	天神堂遺跡	ビュス・エスキュー		3.5	4.0	1.6	25.3	硬質頁岩	第2図版18	

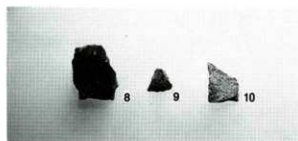
第3図 門前・天神堂地区表出遺物



第1図版 門前・天神堂地区航空写真



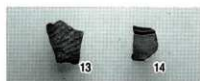
門前Ⅰ遺跡



門前Ⅱ遺跡



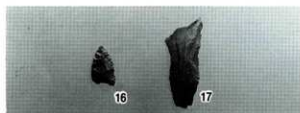
門前Ⅲ遺跡



天天堂遺跡



天天堂Ⅱ遺跡



門前Ⅰ遺跡



天天堂遺跡



門前Ⅰ遺跡 (北より)



門前Ⅱ遺跡 (北西より)



門前Ⅲ遺跡 (南西より)



天天堂Ⅱ遺跡 (西より)

第2図版 門前・天天堂地区表採遺物・遺跡

(2) 寺里・沢里・畑田地区

寺里・沢里・畑田地区は、天神堂地区の西側に相当する。門前・天神堂地区と同様に久慈川の左岸の丘陵に遺跡が立地するが、丘陵裾部に集中しており、遺物の散布密度も濃い。

寺里Ⅰ遺跡は南流する2本の沢に挟まれ、南側に張り出した標高約40mの丘陵状の地形に立地する。現況は山林、畑地及び墓地である。縄文土器、土師器が表採される。本遺跡は、岩手県立久慈高等学校郷土史研究会によって過去に発掘調査が実施されている。昭和41年4月から5月にかけての現地踏査により竪穴住居跡と思われる凹地の存在が確認された。同年7月末に第1回の発掘調査が実施され、平安時代の竪穴住居跡1棟（寺里1号竪穴住居跡）が検出されている。その成果をもとに翌年の昭和42年7月28日から8月3日、8月17日から8月18日に第2回の発掘調査が実施されている。第2回目の発掘調査は市教育委員会の指導のもとに実施されており、竪穴住居跡3棟が検出されている。奈良時代の竪穴住居跡2棟（寺里第3・4号竪穴住居跡）平安時代の竪穴住居跡1棟（寺里第2号竪穴住居跡）が検出されている。本遺跡は、約20,000㎡の規模で、約39棟の竪穴住居跡の存在が推測されている（註1）。なお、本遺跡は昭和48年10月8日に久慈市の史跡に指定されている。

寺里Ⅰ遺跡

寺里Ⅱ遺跡は北から南に下る標高約15mの緩斜面に立地する。遺跡の南側は開田され、現水田面より一段高い畑地において遺物が表採される。

寺里Ⅱ遺跡

沢里遺跡は、南流する2本の沢に挟まれ、南に張り出した標高約50～90mの丘陵上に立地する。現況は山林である。縄文土器が表採される。

沢里遺跡

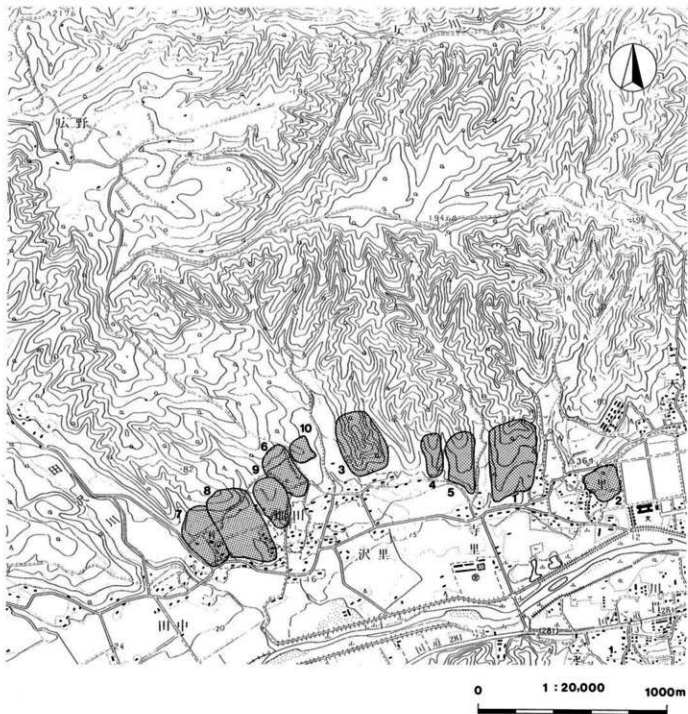
沢里Ⅱ・Ⅲ遺跡は、いずれも沢によって開析され、南に張り出した標高約40～60mの丘陵上に立地する。沢里Ⅱ遺跡は現況は山林であるが、丘陵南端部において地山が露出しており、遺物が散布している。遺物は北側の山林部分から流出したものと思われる。沢里Ⅲ遺跡も現況は山林で、丘陵南側が大きく削土され崖状になっているが、崖上部の黒色土層に縄文土器、土師器が包含されている。

沢里Ⅱ・Ⅲ遺跡

畑田遺跡、畑田Ⅱ～Ⅴ遺跡は、沢里遺跡西方に位置する。南に張り出した丘陵が連続しており、その丘陵裾部、標高約20～50mの北から南に下る低位段丘面に遺跡が立地する。縄文土器、土師器等が表採される。

畑田Ⅱ～Ⅴ遺跡

註1 『郷土史研究発表（1967年文化祭）』岩手県立久慈高等学校 郷土史研究会 昭和42年

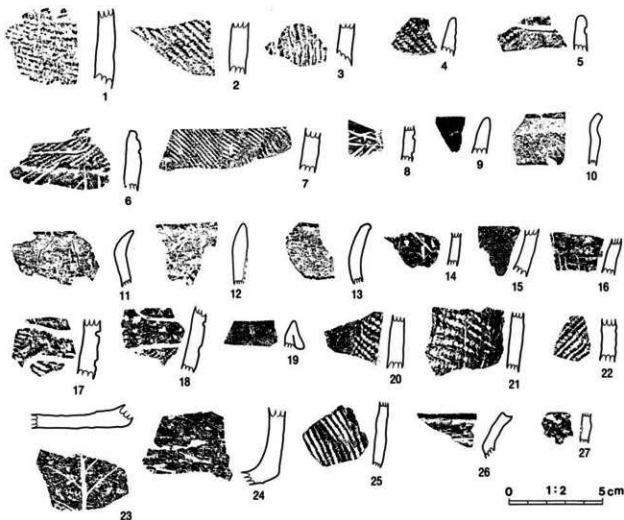


番号	遺跡名	原遺跡口—F	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	寺里I遺跡	J F 29.1179	集落跡	弥生土器、土師器、須恵器、古代彫穴住居跡	寺里第29地割	昭和41-42年発掘調査実施、8存在史料
2	寺里II遺跡	J F 29.1295	集落跡	縄文土器(前・後期)、土師器、須恵器	寺里第33地割	
3	沢里遺跡	J F 29.1191	集落跡	縄文土器(後期)、弥生土器	沢里第22地割	
4	沢里II遺跡	J F 29.1184	散布地	縄文土器(早?・後期)、土師器	沢里第23地割	新規
5	沢里III遺跡	J F 29.1186	散布地	弥生土器、土師器	沢里第23地割	新規
6	畑田遺跡	J F 29.1097	散布地	縄文土器、土師器	畑田第21地割他	
7	畑田I遺跡	J F 29.2034	集落跡	縄文土器(後期)、土師器(奈良・平安)	畑田第20地割36-1	
8	畑田II遺跡	J F 29.2025	集落跡	縄文土器(前・後期)、土師器	畑田第20地割36-1他	
9	畑田III遺跡	J F 29.2016	集落跡	縄文土器、土師器(奈良)	畑田第21地割13他	
10	畑田IV遺跡	J F 29.1087	散布地	縄文土器(後期)	畑田第21地割	新規

第4図 寺里・沢里・畑田地区遺跡分布図

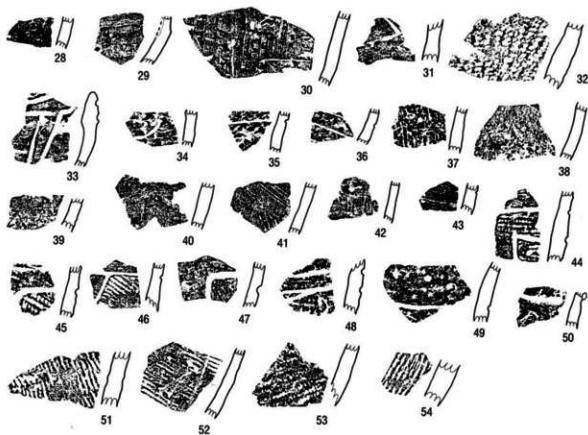


第3図版 沢里・畑田地区航空写真



番号	遺跡名	器種	文様	備考	写真図版
1	寺里 I 遺跡	縄文土器深鉢	LR 単節		第 4 図版 2
2	"	縄文土器深鉢	LR 単節		第 4 図版 1
3	"	縄文土器深鉢	渋り糸		第 4 図版 3
4	"	縄文土器深鉢	LR 単節		第 4 図版 11
5	"	縄文土器深鉢	沈線、LR 単節		第 4 図版 9
6	"	縄文土器深鉢	沈線、LR 単節		第 4 図版 8
7	"	縄文土器深鉢	LR 単節		第 4 図版 12
8	"	縄文土器深鉢	沈線		第 4 図版 10
9	"	土器器杯	ヘラミガキ		第 4 図版 13
10	"	土器器甕	内外ヘラナデ		第 4 図版 6
11	"	土器器甕	ヘラナデ		第 4 図版 7
12	"	土器器甕	ナデ		第 4 図版 4
13	"	土器器甕			第 4 図版 5
14	"	土器器甕	内外ナデ		第 4 図版 14
15	沢里 遺跡	縄文土器	無文		第 4 図版 15
16	沢里 II 遺跡	縄文土器深鉢	渋り糸		第 4 図版 21
17	"	縄文土器深鉢	沈線、LR 単節		第 4 図版 16
18	"	縄文土器深鉢	沈線、LR 単節		第 4 図版 17
19	"	縄文土器?	折り返し口縁		第 4 図版 22
20	"	縄文土器深鉢	LR 単節		第 4 図版 19
21	"	縄文土器深鉢	LR 単節		第 4 図版 18
22	"	縄文土器深鉢	LR 単節		第 4 図版 20
23	"	縄文土器深鉢	底部、木炭痕		第 4 図版 24
24	"	縄文土器深鉢	無文		第 4 図版 23
25	沢里 III 遺跡	弥生土器深鉢	R L 単節		第 5 図版 1
26	"	土器器甕			第 5 図版 2
27	"	土器器?			第 5 図版 3

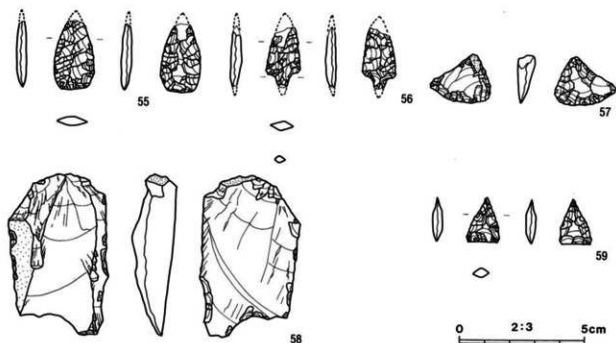
第 5 図 寺里・沢里・畑田地区表採遺物(1)



0 1:2 5cm

番号	遺跡名	器種	文様	備考	写真図版
28	畑田Ⅱ遺跡	土師器甕	外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ		第5図版7
29	〃	土師器坏	内外面ヘラミガキ	内黒処理	第5図版4
30	〃	土師器甕	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ		第5図版6
31	〃	土師器甕	内外面ヘラナデ		第5図版5
32	畑田Ⅲ遺跡	縄文土器深鉢	R L 半節	織継合	第5図版11
33	〃	縄文土器深鉢	沈線文		第5図版8
34	〃	縄文土器深鉢	沈線文		第5図版9
35	〃	縄文土器深鉢	沈線、縄文		第5図版10
36	〃	縄文土器深鉢	沈線		第5図版12
37	〃	縄文土器深鉢	熱り糸		第5図版16
38	〃	土師器坏		内黒処理	第5図版13
39	〃	土師器坏	内外面ミガキ	内黒処理	第5図版15
40	〃	土師器甕	外面ミガキ、内面ナデ		第5図版14
41	〃	土師器甕	外面縦毛目、内面ナデ		第5図版17
42	畑田Ⅳ遺跡	土師器甕	内外面ヘラミガキ	内外面ヘラミガキ	第5図版19
43	〃	土師器甕	内外面ナデ		第5図版18
44	畑田Ⅴ遺跡	縄文土器深鉢	沈線文、L R 半節		第5図版21
45	〃	縄文土器深鉢	沈線文、L R 半節		第5図版22
46	〃	縄文土器深鉢	沈線文、L 無節		第5図版20
47	〃	縄文土器深鉢	沈線文		第5図版23
48	〃	縄文土器深鉢	沈線文		第5図版25
49	〃	縄文土器深鉢	沈線文		第5図版24
50	〃	縄文土器深鉢	隆帯		第5図版26
51	〃	縄文土器深鉢	L 無節		第5図版28
52	〃	縄文土器深鉢	L R 半節		第5図版27
53	〃	縄文土器深鉢	L R 半節		第5図版29
54	〃	縄文土器深鉢	L R 半節		第5図版30

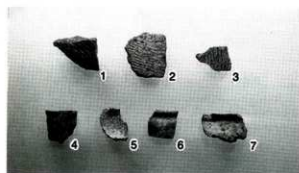
第6図 寺里・沢里・畑田地区表採遺物(2)



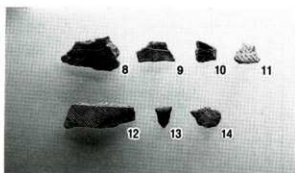
計測値、重量の欄の()内の数値は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量 (単位g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
55	寺里I遺跡	石鏃	凹基無茎	(2.8)	1.6	0.4	(2.0)	硬質頁岩	第5図版31	
56	沢里II遺跡	石鏃	凸基有茎	(2.4)	1.4	0.4	(1.2)	硬質頁岩	第5図版32	
57	畑田II遺跡	スクレイパー		1.9	2.4	0.7	2.5	硬質頁岩	第5図版33	
58	〃	加工痕を有する剥片		6.4	4.0	1.8	37.1	頁岩	第5図版34	
59	畑田V遺跡	石鏃	平基無茎	1.8	1.3	0.4	0.7	硬質頁岩	第5図版35	

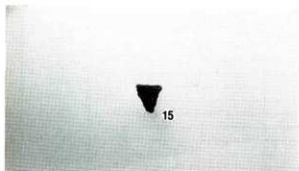
第7図 寺里・沢里・畑田地区表採遺物(3)



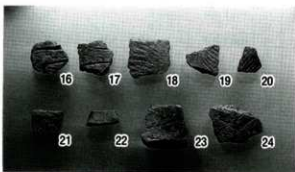
寺里I遺跡



寺里II遺跡

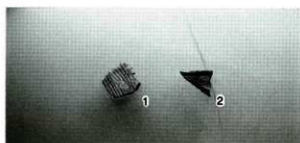


沢里遺跡

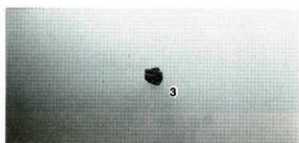


沢里II遺跡

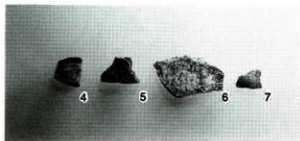
第4図版 寺里・沢里・畑田地区表採遺物(1)



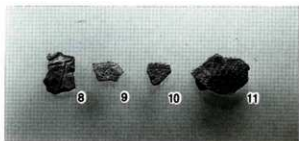
沢里Ⅲ遺跡



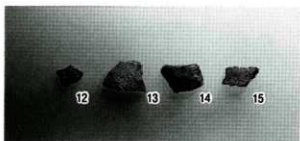
沢里Ⅲ遺跡



畑田Ⅱ遺跡



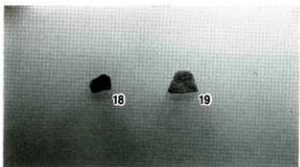
畑田Ⅲ遺跡



畑田Ⅲ遺跡



畑田Ⅲ遺跡



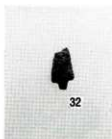
畑田Ⅳ遺跡



畑田Ⅴ遺跡



寺里遺跡



沢里Ⅱ遺跡



畑田Ⅱ遺跡



畑田Ⅴ遺跡



寺里Ⅰ遺跡 (南西より)



寺里Ⅱ遺跡 (南東より)



沢里遺跡 (西より)



沢里Ⅱ遺跡 (東より)



畑田Ⅲ遺跡 (南より)



畑田Ⅱ遺跡 (南西より)



畑田Ⅲ遺跡 (南より)



畑田Ⅳ遺跡 (南より)



畑田Ⅴ遺跡 (北より)

第6図版 寺里・沢里・畑田地区遺跡

(3) 枝成沢地区

枝成沢地区は、久慈川の支流である田沢川中流域に相当するが、田沢川の上流域の基石、中崎地区及び田沢川と夏井川に挟まれた丘陵の頂部に開けた広野地区も含め枝成沢地区として取り扱う。

枝成沢遺跡は、久慈川の支流である田沢川と切金川によって挟まれ南東に細長く延びる丘陵のつけ根の裾部、南西から北東に下る標高約70mの緩斜面に立地する。現況は畑地及び山林である。

枝成沢遺跡

枝成沢Ⅱ遺跡は、枝成沢遺跡の立地する丘陵の南東先端部に立地する。標高は約50mである。現況は山林であるが、一部墓地利用されている。縄文土器が表採される。

枝成沢Ⅱ遺跡

広野地区は、久慈川と夏井川に挟まれた丘陵の頂部に相当する。標高約200m前後の高位海岸段丘面が残っており、平坦面が広範囲に認められる。

広野遺跡は、平坦面の東側張り出し部に立地する。標高は約190mである。現況は畑地である。

広野遺跡

広野Ⅱ遺跡は、平坦面の西側、標高約190mの北から南へ下る緩斜面に立地する。現況は畑地である。

広野Ⅱ遺跡

広野Ⅲ遺跡は、平坦面の西側、標高約200mの南から北へ下る緩斜面に立地する。現況は畑地である。

広野Ⅲ遺跡

広野Ⅳ遺跡は、平坦面の西側に立地し、標高約210mである。現況は畑地である。

広野Ⅳ遺跡

広野Ⅴ遺跡は、平坦面中央付近に立地する。標高約210mである。現況は畑地である。遺跡付近に在住する山田茂氏が本遺跡から採集した遺物を所有していたため、その一部を借用し、参考資料として使用した。(第9図6～25、第10図38～45、第11図46～48)

広野Ⅴ遺跡

広野Ⅵ遺跡は、平坦面の北側に立地する。標高約210mである。現況は山林及び畑地であるが、北から南に下る緩斜面が畑地となっており、縄文土器の散布密度が濃い。集落跡が存在する可能性が高いものと推定される。

広野Ⅵ遺跡

広野Ⅶ遺跡は、平坦面中央部に立地する。標高約210mである。現況は畑地及び果樹園である。縄文土器が表採される。

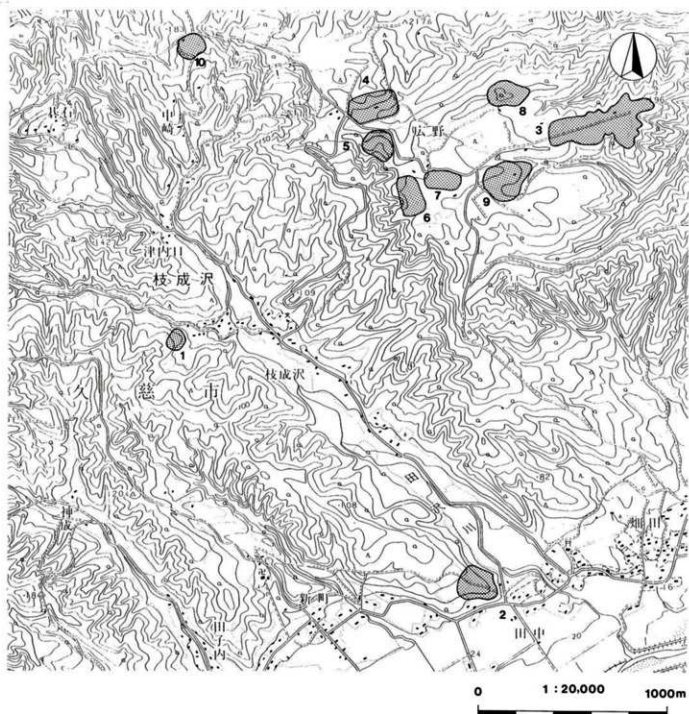
広野Ⅶ遺跡

広野地区においては、縄文土器の散布が広く認められるが、土師器の散布も少量認められる。

中崎地区は、久慈川と夏井川に挟まれた丘陵の頂部付近に相当する。

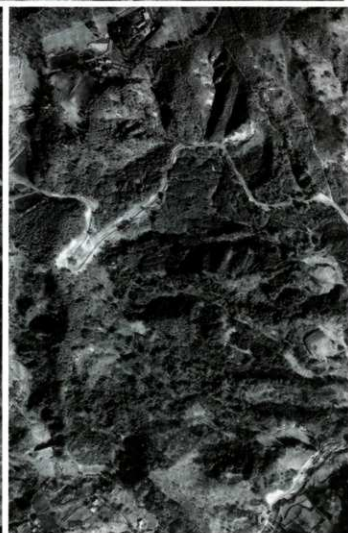
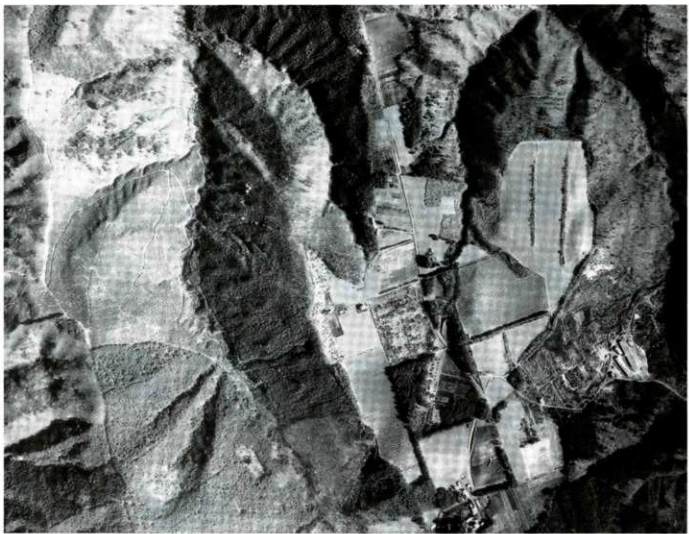
中崎遺跡は、標高約160mの北から南に下る緩斜面に立地する。現況は畑地及び荒地で、縄文時代の遺物が表採される。

中崎遺跡

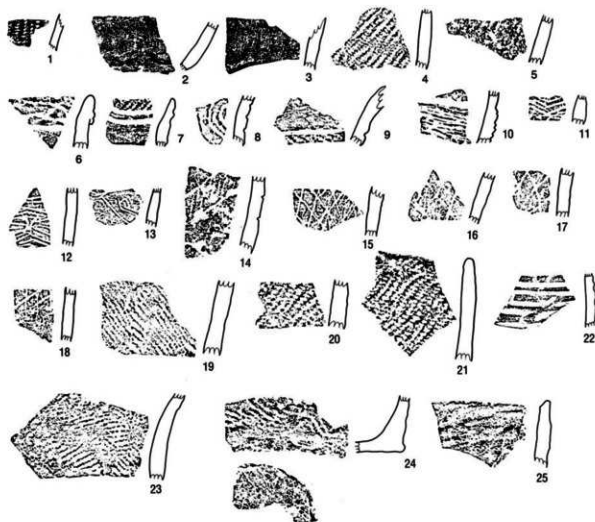


番号	遺跡名	原遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	枝成沢遺跡	J F 28.1222	散布地	土器、石器	枝成沢第14地割86他	
2	枝成沢Ⅱ遺跡	J F 28.2358	散布地	縄文土器(後期)	枝成沢第12地割	新規
3	広野遺跡	J F 29.0011	散布地	縄文土器、弥生土器(後期)	枝成沢第18地割143	
4	広野Ⅱ遺跡	J F 18.2393	散布地	土器	枝成沢第18地割144	
5	広野Ⅲ遺跡	J F 28.0323	散布地	縄文土器(後期)	枝成沢第18地割他	
6	広野Ⅳ遺跡	J F 28.0345	散布地	土器	枝成沢第18地割18	
7	広野Ⅴ遺跡	J F 28.0336	散布地	縄文土器(後・晩期)、土版、石鏃、土師器	枝成沢第18地割18	
8	広野Ⅵ遺跡	J F 19.2090	集落跡	縄文土器(前・中・後期)	枝成沢第18地割156他	
9	広野Ⅶ遺跡	J F 28.0339	散布地	縄文土器(後期)	枝成沢第18地割	新規
10	中崎遺跡	J F 18.2263	散布地	土器、石鏃	枝成沢第17地割	

第8図 枝成沢・広野・中崎地区遺跡分布図



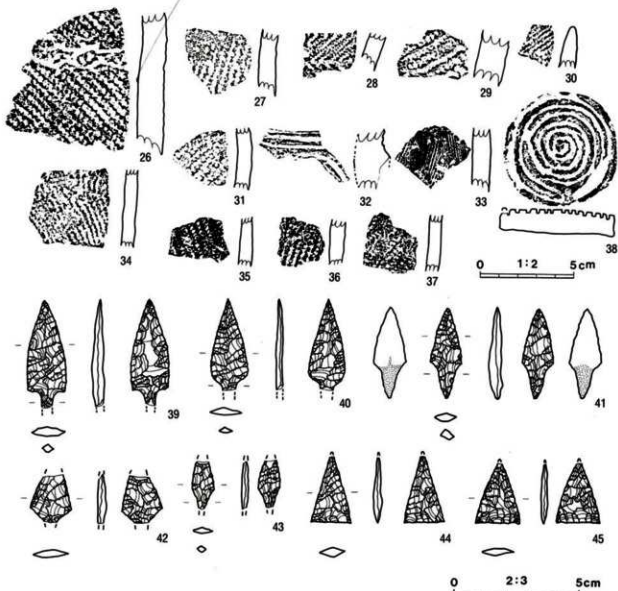
第7图版 广野地区航空写真



0 1:2 5cm

番号	遺跡名	部 種	文 様	備 考	写真図版
1	枝成沢Ⅱ遺跡	縄文土器	R.L.単節		第8図版1
2	"	縄文土器?	無文		第8図版2
3	"	縄文土器?	無文		第8図版3
4	広野Ⅱ遺跡	縄文土器	L.R.単節		第8図版4
5	"	縄文土器	L.R.単節		第8図版5
6	広野Ⅴ遺跡	縄文土器	折り返し口縁、原体正直		第8図版6
7	"	縄文土器	沈線、L.R.単節		第8図版8
8	"	縄文土器	沈線文		第8図版9
9	"	縄文土器	沈線、L.R.単節		第8図版11
10	"	縄文土器	沈線文	縦線合	第8図版7
11	"	縄文土器	沈線文		第8図版16
12	"	縄文土器	沈線文		第8図版17
13	"	縄文土器	沈線文		第8図版18
14	"	縄文土器深鉢	沈線、L.R.単節		第8図版10
15	"	縄文土器深鉢	網目状燃り糸		第8図版13
16	"	縄文土器深鉢	網目状燃り糸		第8図版15
17	"	縄文土器深鉢	網目状燃り糸		第8図版12
18	"	縄文土器深鉢	網目状燃り糸		第8図版14
19	"	縄文土器深鉢	L.R.単節		第8図版22
20	"	縄文土器深鉢	R.L.単節		第8図版23
21	"	縄文土器深鉢	R.L.単節		第8図版20
22	"	縄文土器	沈線文		第8図版19
23	"	縄文土器深鉢	L.R.単節		第8図版21
24	"	縄文土器深鉢	L.R.単節	底部木葉痕	第8図版24
25	"	縄文土器	L.R.単節		第8図版25

第9図 枝成沢・広野・中崎地区表採遺物(1)

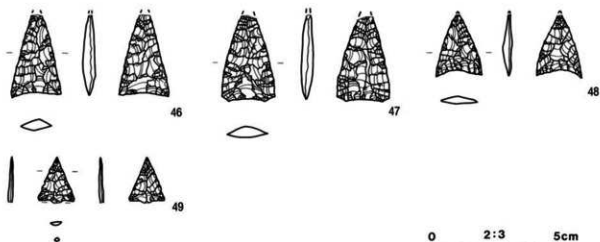


番号	遺跡名	器種	文様	備考	写真図版
26	広野V遺跡	縄文土器深鉢	R L R 縦筋、綾絡文	織継合	第8図版27
27	"	縄文土器深鉢	L R 単筋		第8図版30
28	"	縄文土器	L R 単筋	織継合	第8図版32
29	"	縄文土器深鉢	L R 単筋		第8図版28
30	"	縄文土器	L R 単筋		第8図版33
31	"	縄文土器	L R 単筋		第8図版31
32	"	縄文土器	L R 単筋	織継合	第8図版29
33	"	縄文土器深鉢	沈線文、口縁部突起		第8図版35
34	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文		第8図版34
35	広野V遺跡	縄文土器	L R 単筋		第8図版37
36	"	縄文土器	R L 単筋		第8図版38
37	"	縄文土器	R L 単筋		第8図版36

番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量(単位g)	文様	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
38	広野V遺跡	土版	円形	6.1	6.0	1.3	64.7	沈線渦巻	第8図版26	一部欠損

番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量(単位g)	材質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
39	広野V遺跡	石鏃	平基有茎	(4.3)	1.6	0.5	(0.71)	硬質頁岩	第8図版41	
40	"	石鏃	凸基有茎	(3.7)	1.5	0.3	(0.24)	硬質頁岩	第8図版40	
41	"	石鏃	凸基有茎	3.6	1.2	0.5	0.24	硬質頁岩	第8図版39	フスフット付
42	"	石鏃	凸基有茎	(1.9)	1.6	0.35	(0.1)	硬質頁岩	第8図版43	
43	"	石鏃	凸基有茎	(1.9)	0.9	0.3	(0.15)	硬質頁岩	第8図版42	
44	"	石鏃	平基無茎	(2.6)	1.6	0.35	(0.29)	硬質頁岩	第8図版45	
45	"	石鏃	平基無茎	(2.4)	1.8	0.3	(0.29)	硬質頁岩	第8図版44	

第10図 枝成沢・広野・中崎地区表採遺物(2)



計測値、重量の欄の()内の数値は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量(単位g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
46	広野V遺跡	石鏃	凹基有茎	(3.3)	2.0	0.5	(0.35)	頁岩	第8図版48	
47	"	石鏃	凹基有茎	(3.4)	(2.1)	0.5	(0.7)	硬質頁岩	第8図版46	
48	"	石鏃	凹基有茎	(2.5)	1.8	0.4	(0.3)	硬質頁岩	第8図版47	
49	中崎遺跡	石鏃	平基有茎	(1.8)	1.4	0.2	(0.4)	硬質頁岩	第8図版49	

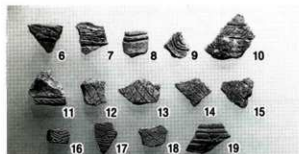
第11図 枝成沢・広野・中崎地区表採遺物(3)



枝成沢II遺跡



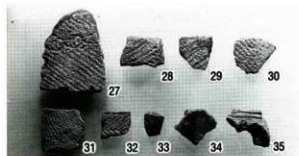
広野III遺跡



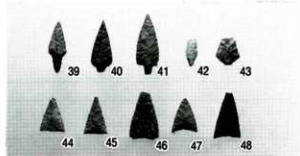
広野V遺跡



広野V遺跡



広野VI遺跡



広野V遺跡



広野VI遺跡



中崎遺跡

第8図版 枝成沢・広野・中崎地区表採遺物



枝成沢遺跡(北東より)



枝成沢Ⅱ遺跡(南西より)



広野遺跡(西より)



広野Ⅱ遺跡(南西より)



広野Ⅲ遺跡(東より)



広野Ⅳ遺跡(南より)



広野Ⅴ遺跡(西より)



広野Ⅵ遺跡(東より)



広野Ⅶ遺跡(西より)

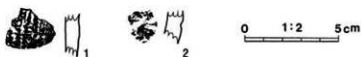


中崎遺跡(東より)

(4) 大川目町長久保地区

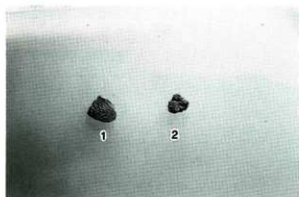
長久保地区は、久慈川の支流である田子内川、田沢川及び夏井川の支流である沢山川の上流域に相当する。標高約 260m 前後の平坦面が広く形成されているが、周辺は急峻な地形を呈する。

長久保遺跡 長久保遺跡は、広く形成された平坦面の南側、標高約 270m の南から北に下る緩斜面に立地する。現況は果樹園、山林及び畑地である。果樹園が大半を占めるが畑地部分において縄文時代の遺物が表採される。



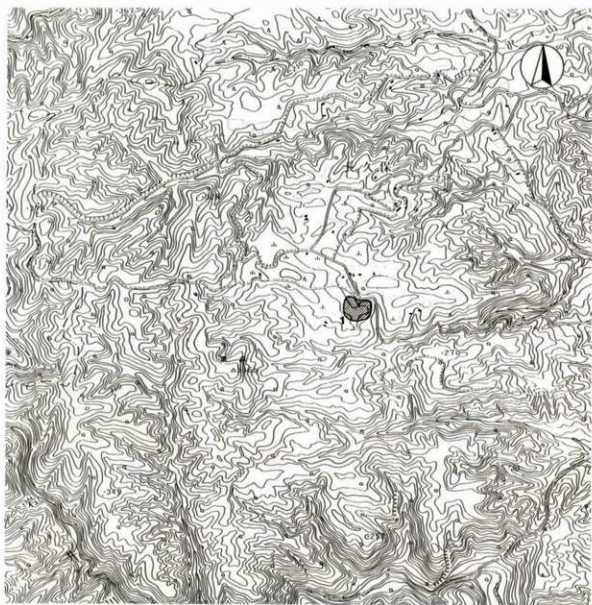
番号	遺跡名	器種	文様	備考	写真図版
1	長久保遺跡	縄文土器	LR 単節		第10図版 1
2	*	縄文土器	不明		第10図版 2

第12図 大川目町長久保地区表採遺物



長久保遺跡 (北西より)

第10図版 大川目町長久保地区表採遺物・遺跡



0 1 : 20,000 1000m

番号	遺跡名	県遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	長久保遺跡	J F 28.1020	散布地	縄文土器 (後期)	大川目町第20地割	新規

第13図 大川目町長久保地区遺跡分布図

(5) 大川目町新町・外里・山口地区

久慈川と夏井川に挟まれ東に延びる丘陵の南側斜面裾部付近には、遺跡が連続して立地する傾向が認められる。本地区以東の斜面裾部の低位海岸段丘面は緩やかな地形を呈しており、南斜面で日照条件も良好であること、久慈川の支流が多く流れ、水利についても好条件を備えていることから、遺跡の分布密度が濃いものと思われる。

しかしながら、本地区より西側には、低位段丘は認められず、遺跡の分布は極端に少なくなるとなる。久慈川左岸には高位段丘面が認められるものの、開析が進行し、長久保地区以外は平坦な地形は少なくなり、急峻な地形が続く。

久慈城跡

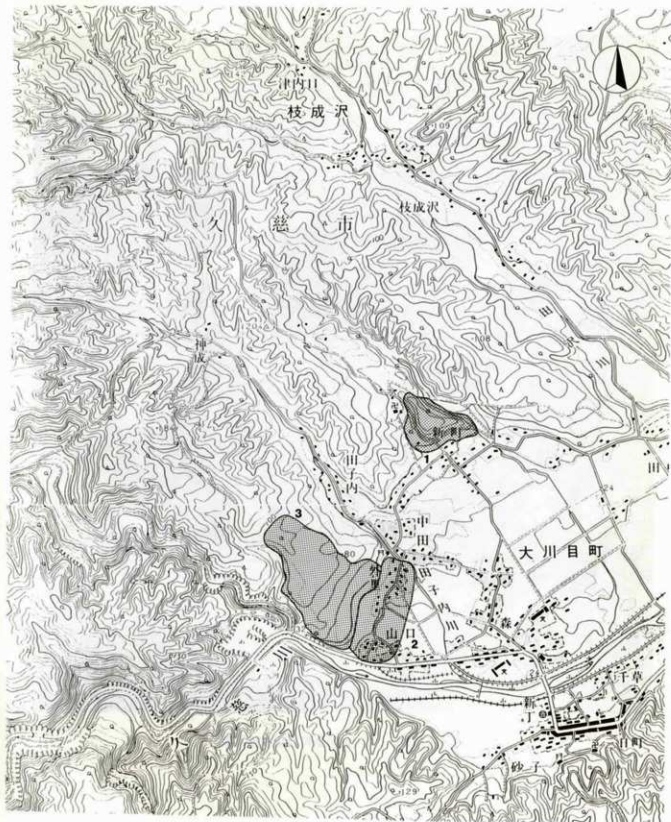
久慈城跡は、久慈川の支流である切金川と田子内川に挟まれ、南東に延びる丘陵の東側先端部に立地する。標高約84m、平地との比高差約50mの丘陵を利用した平山城である。主郭・帯郭・濠跡・馬場跡・井戸跡等が良好な状態で残っている。久慈城跡についてはこれまで発掘調査がなされた例がなく、地形から判断できる遺構以外については実態が不明であった。今回、城跡の内容の一部を把握するため、試掘調査を実施した。試掘調査の結果は第二章で述べるとする。

外里遺跡

外里遺跡は、標高約30mの北西から南東に下る緩斜面に立地する。現況は山林、畑地、宅地である。山口遺跡とも称され、縄文時代前期円筒式土器を主体とする遺跡であり、多量の遺物が散布することで以前より知られていた。遺跡付近に在住する藤森重喜氏が外里遺跡より採集した遺物を多量に所有していたので、その一部を借用し参考資料として使用した。(第17～24図、第13図版)

外里山上遺跡

外里山上遺跡は外里遺跡の北西側の一段高い段丘面に立地する。標高約50～80mの北西から南東に下る緩斜面で、現況は山林及び畑地である。縄文土器を主体とする遺物が散布する。



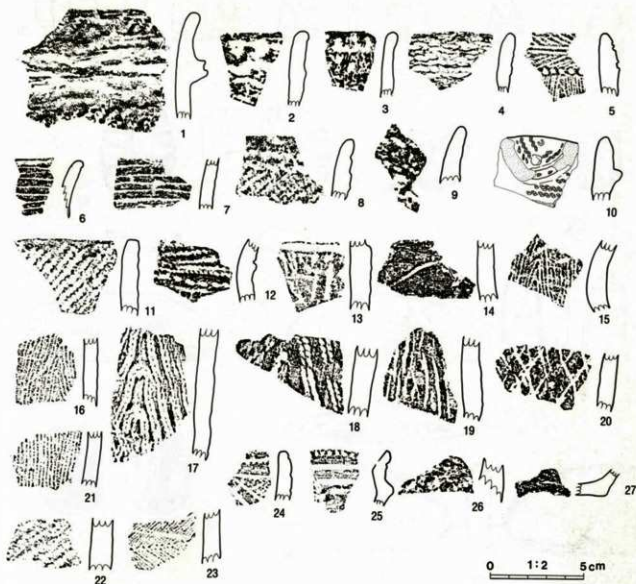
0 1:20,000 1000m

番号	遺跡名	県遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	久慈城跡	J F 28.2258	城跡跡	主郭、帯郭、堀、濠、馬場跡、井戸跡	大川目町第25地割	平成3年度試掘調査実
2	外里遺跡	J F 38.0255	集落跡	縄文土器(前・中・晩期)	大川目町第19地割	別称山口遺跡
3	外里山上遺跡	J F 38.0243	散布地	縄文土器(後・晩期)、土師器	大川目町第19地割	

第14図 大川目町新町・外里・山口地区遺跡分布図

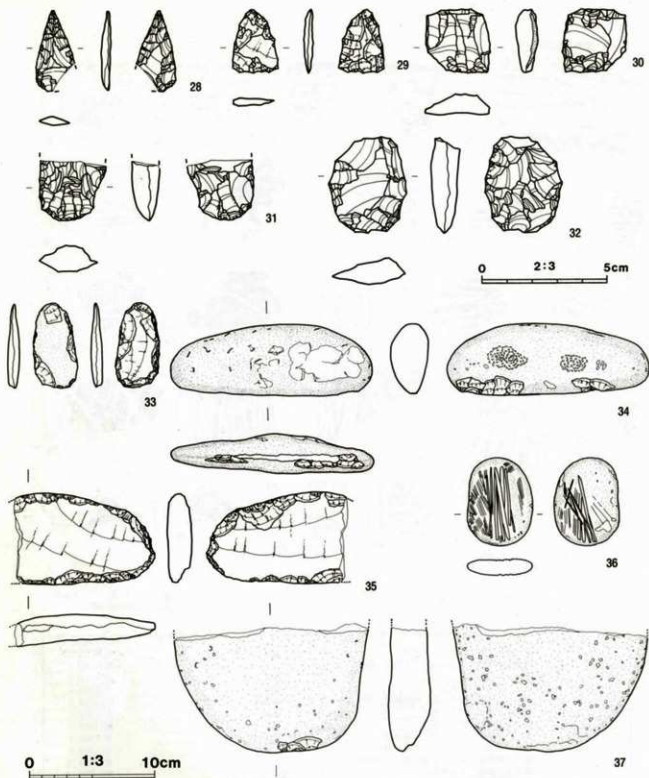


第11図版 大川目町新町地区航空写真



番号	遺跡名	部 種	文 様	備 考	写真図版
1	外里遺跡	縄文土器深鉢	疎帯、L R 単節	織縷含	第12図版 1
2	"	縄文土器深鉢	原体端部による押圧、綾格文	織縷含	第12図版 2
3	"	縄文土器深鉢	?	織縷含	第12図版 3
4	"	縄文土器深鉢	綾格文	織縷含	第12図版 4
5	"	縄文土器深鉢	原体圧痕、円形刺突、木目状燃り糸文	織縷含	第12図版 5
6	"	縄文土器深鉢	原体圧痕	織縷含	第12図版 6
7	"	縄文土器深鉢	原体圧痕	織縷含	第12図版 7
8	"	縄文土器深鉢	原体圧痕、L R 単節	織縷含	第12図版 8
9	"	縄文土器深鉢	原体による円形の刺突	織縷含	第12図版 9
10	"	縄文土器深鉢	疎帯、原体圧痕、円形刺突	織縷含	第12図版 10
11	"	縄文土器深鉢	L R 単節	織縷含	第12図版 11
12	"	縄文土器深鉢	原体圧痕、連続刺突文	織縷含	第12図版 12
13	"	縄文土器深鉢	沈線文、燃り糸文?	織縷含	第12図版 13
14	"	縄文土器深鉢	沈線文	織縷含	第12図版 14
15	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	織縷含	第12図版 15
16	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	織縷含	第12図版 17
17	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	織縷含	第12図版 18
18	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	織縷含	第12図版 19
19	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	織縷含	第12図版 20
20	"	縄文土器深鉢	網目状燃り糸文	織縷含	第12図版 21
21	"	縄文土器深鉢	燃り糸文	織縷含	第12図版 22
22	"	縄文土器深鉢	L R 単節	織縷含	第12図版 23
23	"	縄文土器深鉢	羽状織文	織縷含	第12図版 24
24	外里上山遺跡	縄文土器	沈線文、織文	底面木葉痕	第12図版 25
25	"	縄文土器鉢	口縁部刻み目、沈線、突起		第12図版 26
26	"	縄文土器深鉢	L R 単節		第12図版 28
27	"	縄文土器	R L 単節		第12図版 29

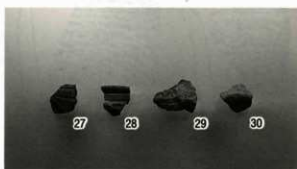
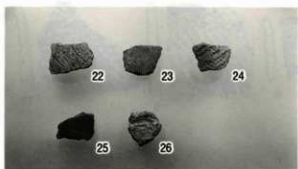
第15図 大川目町外里地区表採遺物(1)



計測値、重量の欄の()内の数値は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量(単位g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
28	外里遺跡	石鏃	不明	(3.2)	(1.5)	0.4	(0.26)	硬質頁岩	第12図版31	
29	〃	石鏃	平基無茎	2.5	1.8	0.4	0.23	硬質頁岩	第12図版32	
30	〃	ピエスエスキーユ		2.5	2.6	0.9	13.5	硬質頁岩	第12図版33	
31	〃	スクレイパー		(2.4)	(2.7)	(1.1)	(10.27)	硬質頁岩	第12図版34	
32	〃	スクレイパー		(3.8)	3.1	1.1	(26.7)	硬質頁岩	第12図版35	
33	〃	打製石斧	楕形	6.8	3.6	0.9	27.0	砂岩	第12図版36	
34	〃	磨石	平円扁平	5.7	16.1	3.2	414.6	花崗岩	第12図版37	凹宥有
35	〃	磨石	平円扁平	(7.3)	(11.3)	(2.1)	(252.8)	花崗岩	第12図版38	
36	〃	糸痕を有する鏃		7.0	5.2	1.3	86.0	細粒砂岩	第12図版40	
37	〃	石皿		(10.2)	(15.5)	(3.3)	(893.5)	閃緑岩	第12図版36	覆付着

第16図 大川目町外里地区表採遺物(2)



久慈城跡（南東より）

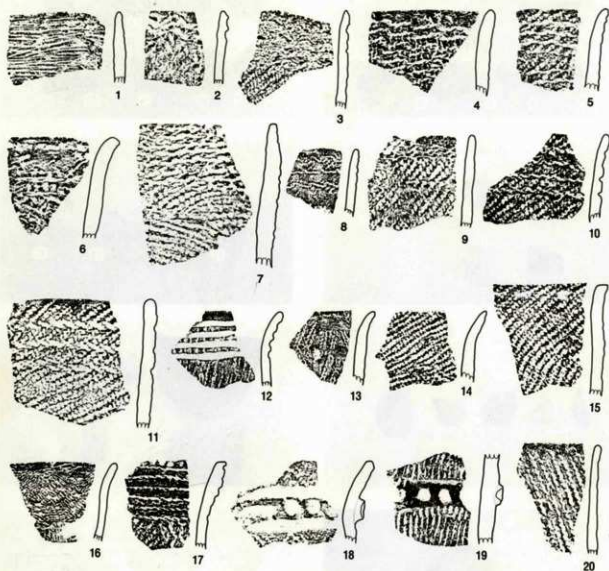


外里遺跡（西より）



外里上山遺跡（北西より）

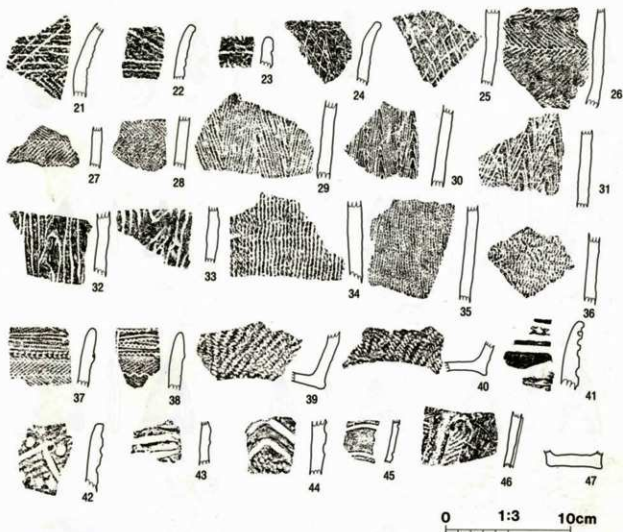
第12図版 大川目町外里地区表採遺物、新町・外里地区遺跡



0 1:3 10cm

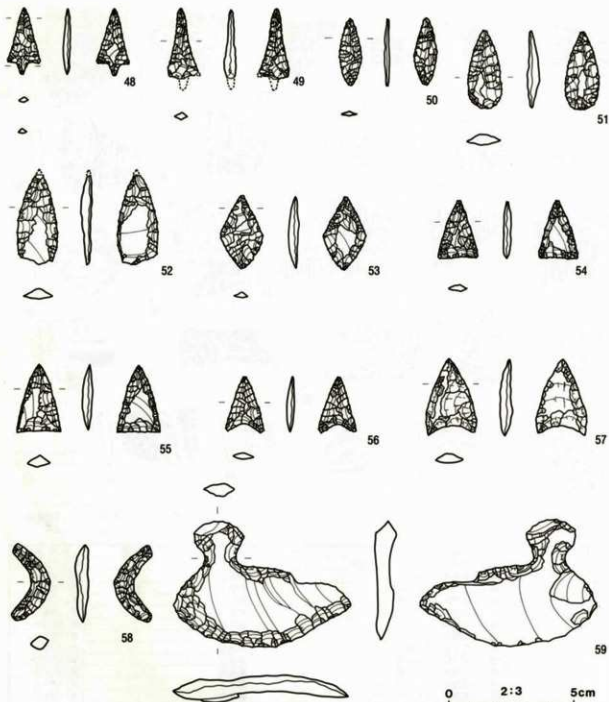
番号	遺跡名	部 種	文 様	備 考	写真図版
1	外里遺跡	織文土器厚鉢	朱線文	織継合	第130図版 1
2	"	織文土器厚鉢	綾絡文、以下不明	織継合	第130図版 2
3	"	織文土器厚鉢	綾絡文、L.R単節	織継合	第130図版 3
4	"	織文土器厚鉢	綾絡文	織継合	第130図版 4
5	"	織文土器厚鉢	綾絡文、L.R単節	織継合	第130図版 5
6	"	織文土器厚鉢	原体圧痕?	織継合	第130図版 6
7	"	織文土器厚鉢	綾絡文、L.R単節羽状	織継合	第130図版 7
8	"	織文土器厚鉢	綾絡文、L.R単節	織継合	第130図版 8
9	"	織文土器厚鉢	綾絡文、L.R単節	織継合	第130図版 9
10	"	織文土器厚鉢	原体圧痕、L.R単節	織継合	第130図版10
11	"	織文土器厚鉢	原体圧痕、L.R単節	織継合	第130図版11
12	"	織文土器厚鉢	平行沈線、燃り糸	織継合	第130図版12
13	"	織文土器厚鉢	木目状燃り糸文	織継合	第130図版13
14	"	織文土器厚鉢	L.R単節	織継合	第130図版14
15	"	織文土器厚鉢	L.R単節	織継合	第130図版15
16	"	織文土器厚鉢	多軸筋条体?	織継合	第130図版16
17	"	織文土器厚鉢	円形刺突、原体圧痕、L.R単節	織継合	第130図版17
18	"	織文土器厚鉢	隆帯上指頭圧痕、L.R単節	織継合	第130図版18
19	"	織文土器厚鉢	隆帯上円形刺突、燃り糸	織継合	第130図版19
20	"	織文土器厚鉢	燃り糸	織継合	第130図版20

第17図 外里遺跡採集遺物(1)



番号	遺跡名	器種	文様	種	備考	写真図版
21	外里遺跡	縄文土器深鉢	原体任原、R L 単筋	縞縞会		第13図版21
22	"	縄文土器深鉢	原体任原	縞縞会		第13図版22
23	"	縄文土器深鉢	原体任原	縞縞会		第13図版23
24	"	縄文土器深鉢	網目状燃り糸文	縞縞会		第13図版24
25	"	縄文土器深鉢	網目状燃り糸文	縞縞会		第13図版25
26	"	縄文土器深鉢	羽状縞文	縞縞会		第13図版26
27	"	縄文土器深鉢	羽状縞文	縞縞会		第13図版27
28	"	縄文土器深鉢	羽状縞文	縞縞会		第13図版28
29	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	縞縞会		第13図版29
30	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	縞縞会		第13図版30
31	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	縞縞会		第13図版31
32	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	縞縞会		第13図版32
33	"	縄文土器深鉢	木目状燃り糸文	縞縞会		第13図版33
34	"	縄文土器深鉢	燃り糸文	縞縞会		第13図版34
35	"	縄文土器深鉢	燃り糸文	縞縞会		第13図版35
36	"	縄文土器深鉢	多軸筋条体	縞縞会		第13図版36
37	"	縄文土器深鉢	原体任原、隆帯上刺突、羽状縞文	縞縞会		第13図版37
38	"	縄文土器深鉢	原体任原、縞縞文、縞文	縞縞会		第13図版38
39	"	縄文土器深鉢	L R 単筋	縞縞会		第13図版39
40	"	縄文土器深鉢	L R 単筋	縞縞会		第13図版40
41	"	縄文土器深鉢	沈縞文、刺突	縞縞会		第13図版42
42	"	縄文土器深鉢	沈縞文、刺突、R L 単筋	縞縞会		第13図版43
43	"	縄文土器深鉢	沈縞文	縞縞会		第13図版44
44	"	縄文土器深鉢	沈縞文、縞文	縞縞会		第13図版45
45	"	縄文土器	沈縞文、縞文	縞縞会		第13図版46
46	"	縄文土器深鉢	隆帯、沈縞文、R L 単筋	縞縞会		第13図版47
47	"	縄文土器	無文	縞縞会		第13図版41

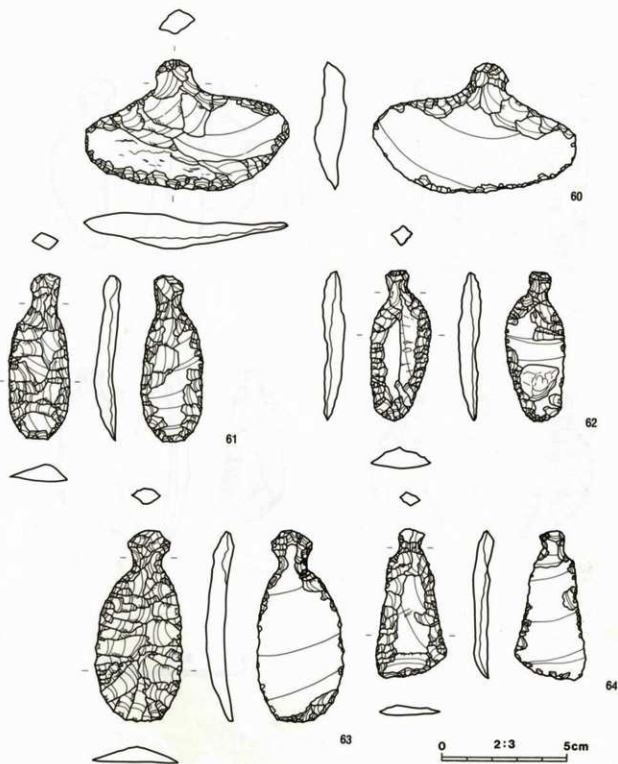
第18図 外里遺跡採集遺物(2)



計測値、重量の欄の() 内の数値は欠損品の現存値

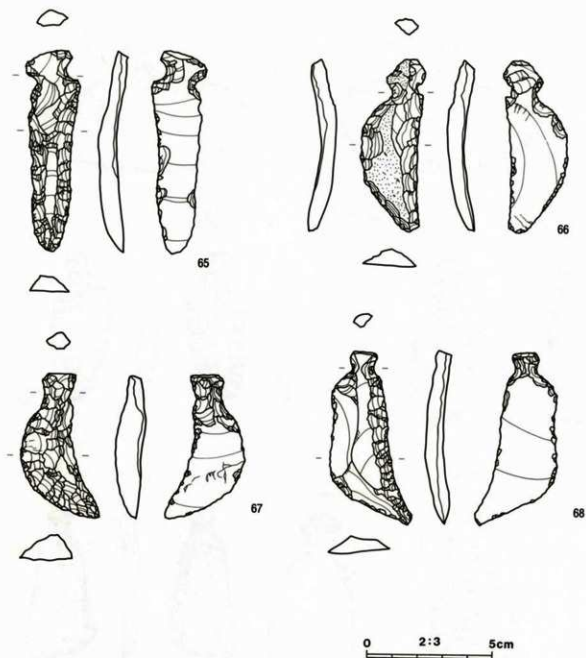
番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位:cm)			重量 (単位:g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
48	外里遺跡	石鏃	平基有基	2.7	1.3	0.3	0.7	硬質頁岩	第13図版48	
49	"	石鏃	平基有基	(2.8)	(1.2)	0.5	(1.0)	硬質頁岩	第13図版49	
50	"	石鏃	柳葉	2.7	0.9	0.2	0.4	硬質頁岩	第13図版50	
51	"	石鏃	円基	3.1	1.4	0.5	1.7	硬質頁岩	第13図版51	
52	"	石鏃	凸基無基	(3.6)	1.6	0.4	(2.6)	硬質頁岩	第13図版52	
53	"	石鏃	葉形	2.9	1.7	0.4	1.5	硬質頁岩	第13図版53	
54	"	石鏃	平基無基	2.4	1.6	0.3	0.9	硬質頁岩	第13図版54	
55	"	石鏃	平基無基	2.7	1.7	0.4	1.4	硬質頁岩	第13図版55	
56	"	石鏃	凹基無基	2.3	1.5	0.3	0.6	硬質頁岩	第13図版56	
57	"	石鏃	凹基無基	3.0	2.0	0.5	2.1	砂岩	第13図版57	
58	"	異形石器	ノの字形	3.1	1.5	0.5	1.4	硬質頁岩	第13図版58	
59	"	石匙	扇形	5.0	7.0	1.1	22.1	硬質頁岩	第13図版59	

第19図 外里遺跡採集遺物(3)



番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量 (単位g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
60	外里遺跡	石匙	楕形	5.2	8.1	1.4	31.7	硬質頁岩	第130図版60	
61	"	石匙	楕形	6.6	2.4	1.0	12.2	硬質頁岩	第130図版61	
62	"	石匙	楕形	6.0	2.4	0.9	10.0	硬質頁岩	第130図版62	
63	"	石匙	楕形	7.7	3.5	1.0	19.9	硬質頁岩	第130図版63	
64	"	石匙	楕形	6.0	2.8	0.8	9.5	硬質頁岩	第130図版64	

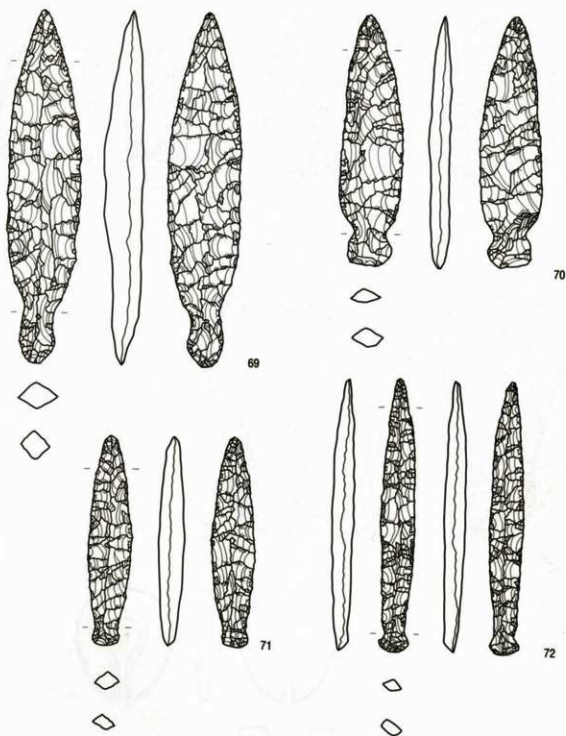
第20図 外里遺跡採集遺物(4)



計測値、重量の欄の()内の数値は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量 (単位g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
65	外里遺跡	石匙	縦形	8.0	2.2	1.1	13.3	硬質頁岩	第13図版65	
66	*	石匙	縦形	6.9	2.6	1.0	13.1	硬質頁岩	第13図版66	
67	*	石匙	縦形	5.8	3.1	1.2	14.6	硬質頁岩	第13図版67	
68	*	石匙	縦形	6.9	3.7	1.0	14.2	珪質	第13図版68	

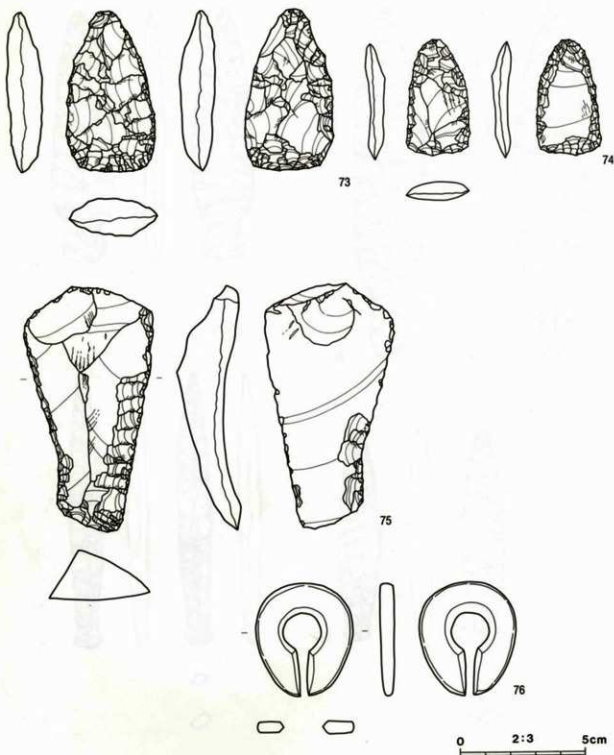
第21図 外里遺跡採集遺物(5)



計測値、重量の欄の()内の数値は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量 (単位g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
69	外里遺跡	石槍		14.2	2.9	1.6	57.8	硬質頁岩	第13図版69	
70	"	石槍		10.0	2.5	0.9	22.0	硬質頁岩	第13図版70	
71	"	石槍		8.4	1.7	1.0	14.6	硬質頁岩	第13図版71	
72	"	石槍		10.9	1.3	0.9	13.2	硬質頁岩	第13図版72	

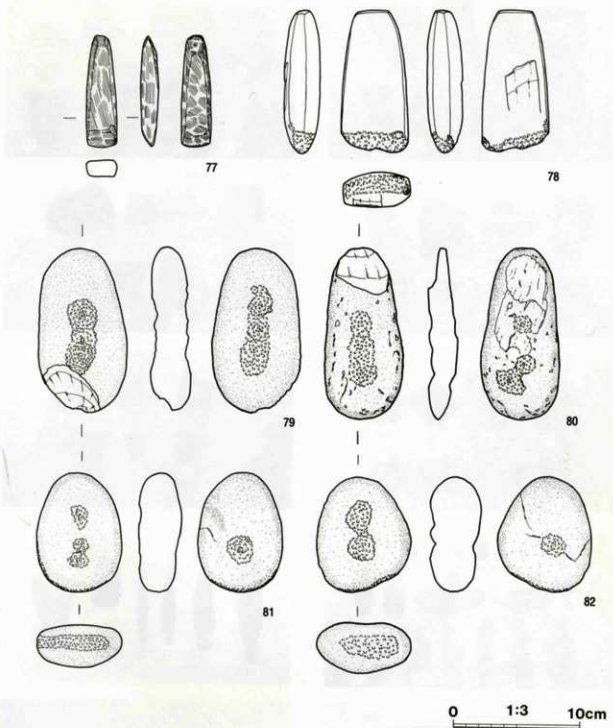
第22図 外里遺跡採集遺物(6)



計測値、重量の欄の()内の数値は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量 (単位g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
73	外里遺跡	石鏃		6.4	3.5	1.4	32.7	硬質頁岩	第13図版73	
74	"	石鏃		4.6	2.6	0.8	7.9	硬質頁岩	第13図版74	
75	"	二次剝離を有する刮片		9.8	5.1	2.5	71.7	頁岩	第13図版75	
76	外里遺跡	袈状耳飾り		4.6	3.9	0.6	14.3	凝灰岩	第13図版80	

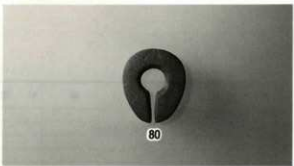
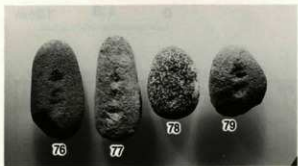
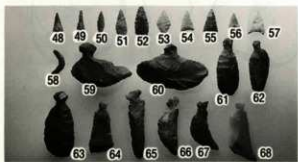
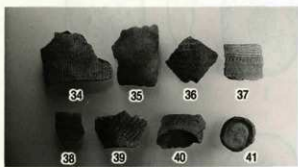
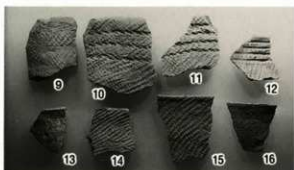
第23図 外里遺跡採集遺物(7)



計測値、重量の欄の()内の数値は欠損品の現存値

番号	遺跡名	器種	形態	計測値(単位cm)			重量 (単位g)	石質	写真図版	備考
				長さ	幅	厚さ				
77	外里遺跡	磨製石斧		9.0	2.4	1.4	56.9	硬質頁岩		
78	"	敲石(磨製石斧転用)		11.3	5.4	2.8	308.6	砂岩		
79	"	凹石		13.1	7.1	3.2	414.0	粗粒砂岩	第13図版76	両面に凹
80	"	凹石		13.7	6.3	2.3	308.4	閃綠岩	第13図版77	両面に凹
81	"	凹石		9.6	6.8	3.4	377.0	花崗岩	第13図版78	両面に凹
82	"	凹石		9.2	7.5	4.0	349.6	粗粒砂岩	第13図版79	両面に凹

第24図 外里遺跡採集遺物(8)



第13図版 大川目町外里遺跡採集遺物

(6) 大川目町荒津前・水無地区

荒津前・水無地区は久慈川右岸の高位段丘面に相当する。本地区より、高位段丘面が帯状直線的に、宇部町を経て野田村和野平地区まで、南東方向に延びるように形成されている。広範囲に平坦面が認められるが、山林の占める割合が多く、遺跡の所在確認は不可能な箇所が多い。遺跡台帳に登録されている遺跡についても現在は山林となっている箇所については、遺物の表採は不可能であった。

荒津前遺跡は、標高約 140mの南西から北東に下る緩斜面に立地する。現況は畑地、山林である。縄文土器、土師器が表採される。

荒津前遺跡

荒津前平Ⅰ遺跡は、南から北に延びる丘陵上に立地する。標高約 130mである。

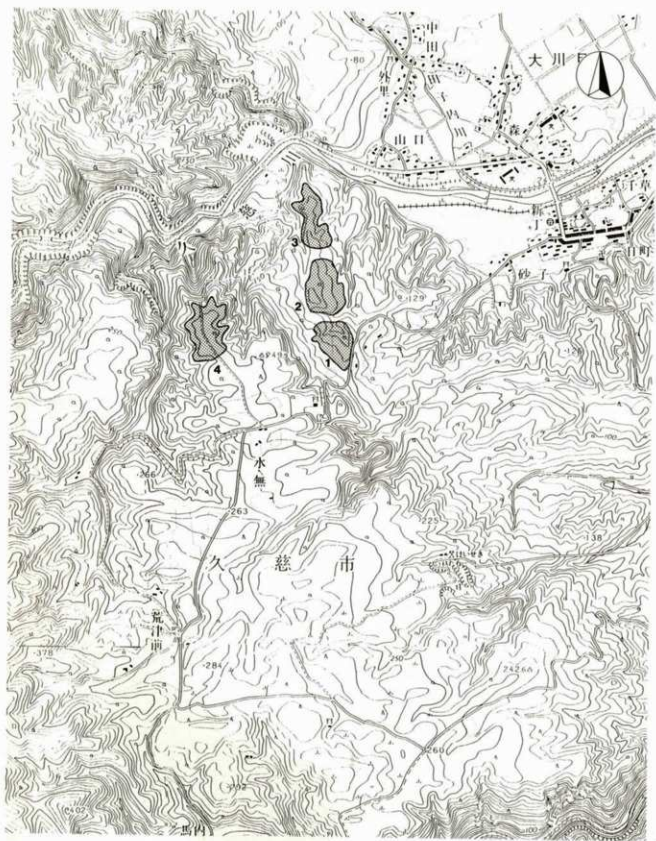
荒津前平

荒津前平Ⅱ遺跡は、荒津前平Ⅰ遺跡が立地する丘陵の先端部に立地する。標高約 110mである。荒津前平Ⅰ・Ⅱ遺跡とも、現況は山林であるため、遺物の表採は不可能であった。

Ⅰ・Ⅱ遺跡

水無遺跡は、南東から北西に張り出した平坦面に立地する。標高約 250mで現況は山林である。木材の運搬のため一部表土が削土されており、その削土部分に遺物が散布する。無文の土器が表採されており、土師器と思われる。

水無遺跡



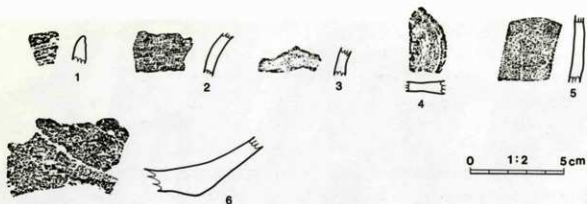
0 1 : 20,000 1000m

番号	遺跡名	原遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	荒津前遺跡	J F 38.1273	散布地	縄文土器(前期)、土師器(平安)	大川目町第10地割	
2	荒津前平Ⅰ遺	J F 38.1242	集落跡	土師器	大川目町第10地割	
3	荒津前平Ⅱ遺	J F 38.1211	散布地	縄文土器(後・晩期)	大川目町第10地割	
4	水無遺跡	J F 38.1165	散布地	土師器	大川目町第10地割	新規

第25図 大川目町荒津前・水無地区遺跡分布図

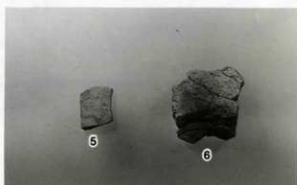
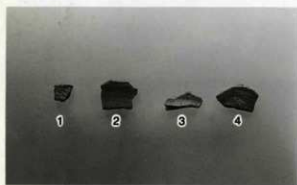


第14図版 大川目町荒津前・水無地区航空写真



番号	遺跡名	器種	文様	備考	写真図版
1	荒津前遺跡	縄文土器	原形残片	継継合	第15図版 1
2	"	土器器壁	内外面ヨコナデ		第15図版 2
3	"	土器器壁	内外面ヨコナデ		第15図版 3
4	"	土器器杯		底部回転糸切り、内黒地埋	第15図版 4
5	水無遺跡	土器器?			第15図版 5
6	"	土器器?			第15図版 6

第26図 大川目町荒津前・水無地区表採遺物



荒津前遺跡 (南東より)



水無遺跡 (南東より)

第15図版 大川目町荒津前・水無地区表採遺物・遺跡

(7) 大川目町三日町地区

久慈川と長内川に挟まれ北東に延びる丘陵南側斜面においては遺跡の分布密度が濃い、久慈川右岸に相当する本地区を含めた丘陵北側斜面においては遺跡の分布密度が薄くなる。

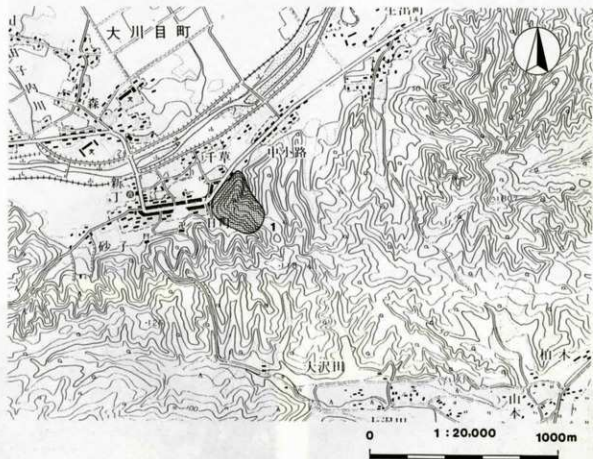
丘陵の北側斜面のため日照条件が悪いことが考えられるが、同様の傾向は久慈川と夏井川に挟まれ東に延びる丘陵においても認められる。本地区は久慈川の支流による開析の進行が著しく、険しい地形が多いことも遺跡の分布密度が薄い要因のひとつと思われる。

三日館跡は、久慈川右岸の丘陵裾部、両側を沢に開析され、南東から北西に延びる張り出し先端部に立地する。標高約90mで、現況は山林である。張り出しの基部寄りには空堀によって切れ、郭が区画されている。

三日館跡

単郭式で、空堀、土塁が残存している。空堀は、張り出し北側から南へ約100mの位置に、深さ約2m、幅約3m、長さ約20mにわたり段状に現存している。また、館跡北側から約350mの位置に高さ約3m、幅約8m、長さ約50mの土塁が認められる。

築城年代や城主等については全く不明である。



番号	遺跡名	原遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	三日館跡	J F 39.1010	城館跡	空堀、土塁	大川目町第5地割	昭和59年度城館調査

第27図 大川目町三日町地区遺跡分布図



三日館跡（北西より）



三日館跡堀跡（北東より）

第16図版 大川目町三日町地区航空写真・遺跡

(8) 川貫・八日町地区

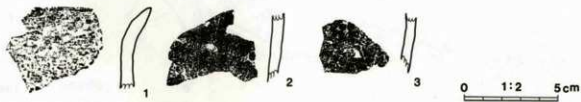
川貫・八日町地区は久慈地区に属し、久慈川と長内川に挟まれ北東に延びる丘陵の先端部北側に相当する。

川貫遺跡は、南西から北東に下る、標高約30~40mの緩斜面に立地する。現況は畑地及び原野である。土師器の散布が認められる。 川貫遺跡

高館跡は、久慈川と長内川に挟まれ北東に延びる丘陵先端部北側斜面の北に張り出した丘陵に立地する。標高約85mである。現況は山林及び市民の森公園となっている。 高館跡

複郭式で、土塁、空堀が残存している。主郭平場は東西約50m、南北約100mで、南東側丘陵基部に高さ約1m、幅約2m、長さ60mの土塁が現存している。館跡東南基部は高さ約2m、上幅約8m、長さ約20mの空堀で切断されている。

築城年代は不明である。館主は九戸政実の乱の際に、九戸方について高館因幡と推定されているが、詳細は不明である。



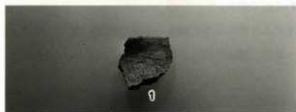
番号	遺跡名	器種	文様	備考	写真図版
1	川貫遺跡	土師器壺	内外面ナデ		第17図版 1
2	〃	土師器壺	外面ヘラミガキ、内面刷毛目		第17図版 2
3	〃	土師器壺	外面ヘラナデ、内面不明		第17図版 3

第28図 川貫地区表採遺物



番号	遺跡名	県遺跡コード	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	川貫遺跡	J F 39.0203	散布地	土師器 (奈良・平安)	川貫第10地割	新説
2	高館跡	J F 29.2371	城跡跡	堀切、土塁	八日町第4地割	昭和59年度城跡調査

第29図 川貫・八日町地区遺跡分布図



川貫遺跡



川貫遺跡



川貫遺跡 (南東より)



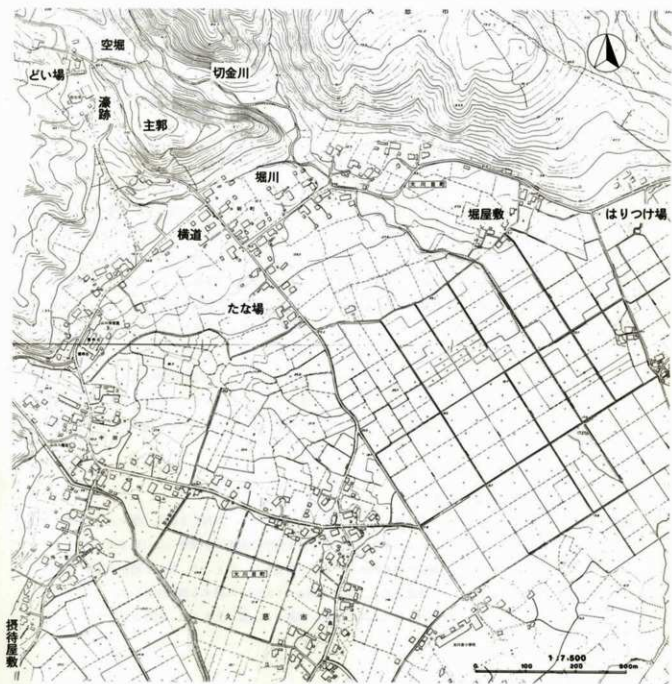
高館跡 (北西より)

第17図版 川貫・八日町地区航空写真、表採遺物、遺跡

2 試掘調査結果

(1) 久慈城跡の概要

概 要	<p>久慈城跡は、久慈市大川町新町に所在し、久慈川の支流である切金川と田子内川に挟まれ南東に延びる丘陵の東端部に立地する。標高約84m、平地との比高差約50mである。城跡からの眺望は良く久慈川沿いに開けた平野が一望でき、久慈湾まで望むことができる。</p> <p>城跡北東側には切金川が流れ、川沿いの城跡側は急な傾斜地である。城跡西側から南側にかけては、濠が城跡をとり囲むように廻り、東端部で切金川と合流する。また、城跡北側の丘陵基部は堀切によって切金川と濠をつないでおり、この切金川、濠、及び堀切によって区画された範囲が城跡として捉えられる。区画内の面積はおよそ70,000㎡である。現況は山林及び原野等であるが、城跡内の西側は道路によって若干削土されている。平面形は隅丸三角形を呈し、自然地形を利用した平山城である。城跡周辺には堀屋敷、はりつけ場、たな場等の地名が残っており、城をとりまく平時の生活空間も含めれば広大な面積となるものと推定される(第30図)。</p>
主 郭	<p>城の中心にあたる主郭は、区画内中央よりやや西寄りに位置する。平面形は隅丸三角形を呈し、東～西約60m、南～北約80mで、面積は約2,800㎡である。北西から南東に緩やかに下るが、ほぼ平坦といえる。</p>
帯 郭	<p>主郭の南側を取り囲むように四段の帯郭が廻る。便宜上4つの帯郭を上から帯郭A、帯郭B、帯郭C、帯郭Dと呼称することとする(第31図)。</p> <p>帯郭Aは、主郭の東側から南側にかけて設けられている。東側は広い平地となっており、ほぼ平坦である。東～西約30～40m、南～北約35～40mを測る。南側の郭はやや張り出しており、南～北約18m、東～西約20mを測る。南側の張り出しと東側の広い平地とは幅5～8mの狭い平地によってつながる。主郭との比高差は約3mである。</p> <p>帯郭Bは、西側から南側にかけて主郭と帯郭Aを囲むように幅4～5mの幅細に廻る。東側はやや広い平地となり、東～西約33m、南～北23～35mを測る。帯郭Aとの比高差は東側で約3m、西側で約5mである。</p> <p>帯郭Cは、城跡の南側に設けられている。幅約10～17m、長さ80mの南東に下る緩斜面である。帯郭Bとの比高差は16mである。帯郭C西端には、現在、天王社が祀られている。</p> <p>帯郭Dは、城跡の西側から南側にかけての裾部に設けられている。帯郭Dの縁は濠跡となる。幅は約30～50mを測る。帯郭Cとの比高差は南東部で約7mである。緩やかな斜面で、これまで馬場跡と呼ばれていた場所である。帯郭D中央付近には、現在、駒形社が祀られている。</p> <p>帯郭は基本的には4段構成であるが、帯郭の間には幅の狭い平地が設けられている箇所もあり、北側の急斜面の中位にも平地が認められる。</p> <p>また、帯郭Bの東側は尾根状の地形であるが、尾根に沿って2つの小規模な郭が連続して設けられており、帯郭Aを含め、主郭から東側に郭が連なる構造である。</p>
空 堀	<p>主郭の北側には長さ約50m、最大幅12mの空堀がある。空堀の北には小規模な郭がある。北西から南東に長く、東～西約10m、南～北約20mの規模である。北端部には、現在、稲荷社が祀られている。</p>
濠	<p>城跡西側から南側にかけて城跡をとり囲むように濠が廻っている。西側の濠の北寄りには砂防</p>



第30図 久慈城跡付近地形図

史料

ダムが造られたため、当時より濠の幅が広がったものと思われ、最大幅約12mを測るが、他は3～12mの幅で廻る。

以上のように、久慈城跡は、自然地形、天然の川などを利用し築かれた中世山城の典型といえる。北東側及び西側は急な斜面となっており、南側には四段の帯郭で構成されている。

久慈城は、地元では「新町館」と呼ばれている。また、近世の史料には「八日館」と記されている。久慈城の築城年代等については根本史料を欠くため不明な点が多いが、以下、久慈城の築城年代、城主等が窺える史料を掲げることとする。

「往年久慈修理助の時代に至り、不幸にして、家を嗣ぐ子裔無く～中略～与三郎信実彦次郎通継告弟を以て当家を相続、修理旧領を与三郎信実と賜う。故に居を久慈大川目八日館と云うに構え。子孫累代南部家の従者なり。与三郎、摂津守と改め、終年又備前守信実と称号し・・・(原漢文)」(『摂待久慈家譜』註1)

「久慈 文明年中久慈を領す後備前九戸一味故本家断絶す」(『奥南旧指録』註2)

「信実～中略～家督の後久慈大川目に館を築て之に居、之を八日館と云、・・・」(『参考諸家系図巻八』註3)

「文明年中に久慈を領して久慈氏と称す」(『内史聞』註4)

これらの史料によると、文明年中(1469～1486年)に久慈備前守信実が久慈大川目の八日館に居館、あるいは八日館を築いたとしている。信実は久慈氏の祖を南部光行三男朝清とすれば久慈氏12代にあたとされているが、それ以前の久慈氏累代の事蹟については不明な点が多い。久慈城には、信実以来久慈氏累代が居館することとなるが、天正19年(1591年)の九戸の乱の際に、久慈備前守18代直治は養子中務政則とともに九戸方につき敗れ、九戸政実ら九戸方の武将とともに現在の宮城県栗原郡栗駒町三迫岩ヶ崎で処刑され久慈氏の嫡系は滅亡した。

天正18年(1590年)に、豊臣秀吉から所領安堵の朱印状を交付された南部信直は、領内の諸城破却の命令を受け、領内にある48城のうち36城を取り壊し、破却目録を書き上げている。天正20年(1592年)の「南部大膳大夫分國之内諸城破却書立」(『聞老遺事』註5)に「一、同郡之内 久慈 山城 破却 信直抱代官久慈修理」とあることから、久慈城は、天正19年9月の九戸の乱後からこの破却目録が書き上げられた天正20年6月までの間に破却されたものと思われる。

(2) 調査の概要

調査区の設定

主郭及び帯郭における遺構の存在の有無を確認するため、主郭に2箇所、帯郭Aに1箇所、帯郭Aから帯郭Bにかけての斜面に1箇所の計4箇所に調査区を設定した(第32図)。

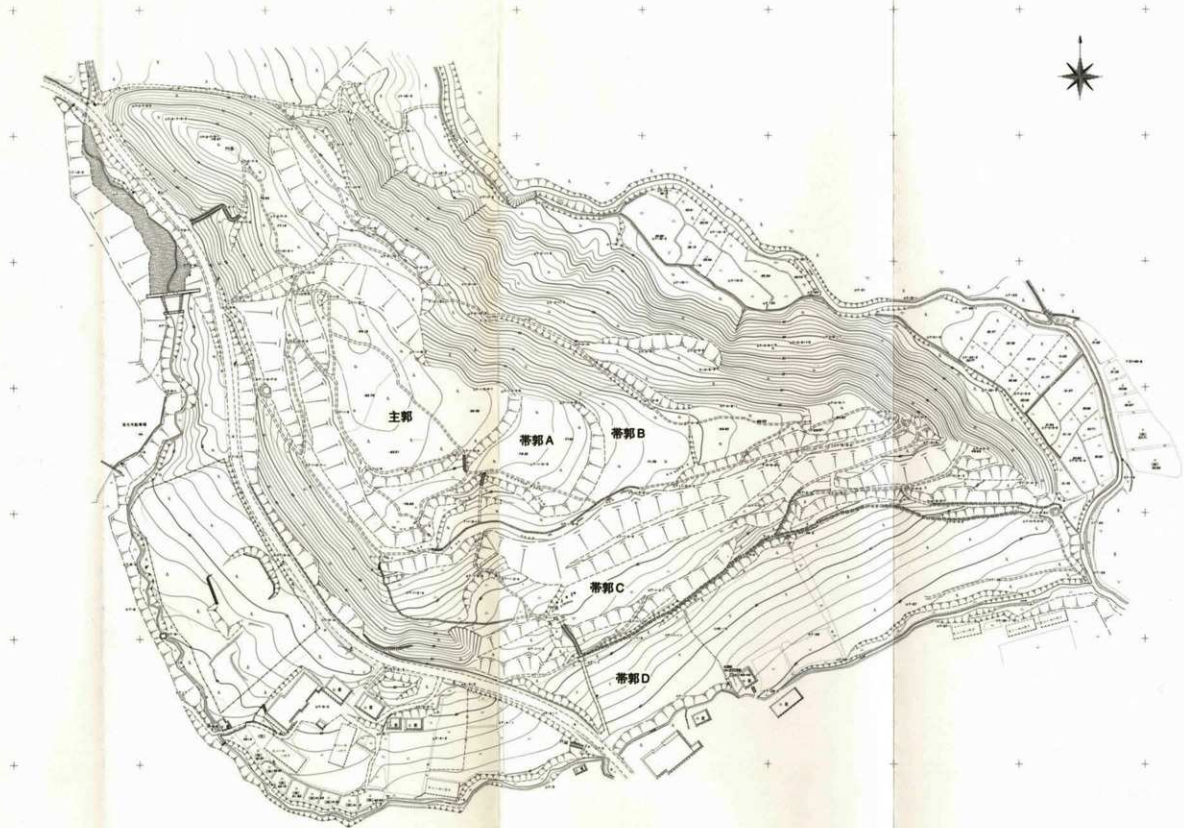
主郭においては、事前に簡易的なボーリング探査を行ったところ、柱穴と思われる落ち込みが多数存在することが確認された。深さは60cm～1m以上に達する箇所もあった。ボーリング探査により柱穴と思われる落ち込みの存在が確認され、且つ立木がない箇所を選び調査区を設定し、調査を実施した。

(3) 基本層序

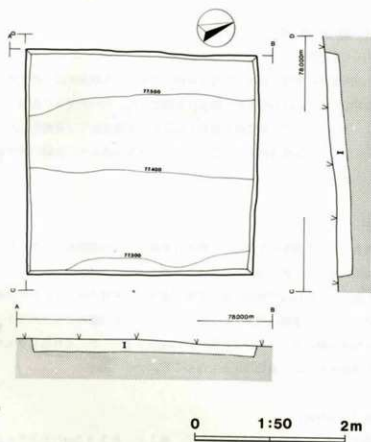
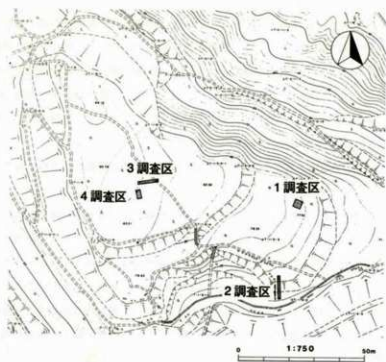
I層は表土である。II層は褐色の砂質土層で、サクサクしており、カーボン粒を少量含む。

久慈城跡地形測量図

縮尺 1:500



第31図 久慈城跡地形測量図



1・2調査区層位

層位	土色	土性	密度	堅さ	見入物	その他
I	10Y R 黒褐色	シルト	硬	軟	腐食土、フカフカ	
II	10Y R 黄褐色	シルト	やや密	やや堅	地山	

第32図 調査区配置図及び1調査区

遺構検出面 III層は砂岩層である。極めて堅固な層で、このIII層上面が遺構検出面である。上面には赤褐色の酸化鉄の面が形成されている。城跡の基盤はこの砂岩で、一部に砂岩の崩壊層やシルトの堆積が認められる。この砂岩層は段丘堆積層で、下部に礫岩の堆積層が認められる。主郭においては、この砂岩を穿ち柱穴が掘られているため、極めて良好な状態で遺構が検出された。上端が若干崩壊しているものも認められたが、中位以下ははっきりと検出でき、底面の方形プランもよく判る状況であった。

また、現地表面から遺構検出面までの深さは浅く、現在の地形は当時の地形とほとんど変わっていないものと推定される。

湧水 なお、最も高い主郭において、柱穴の埋土を掘り上げると砂岩層から水が湧き出し、柱穴の半分以上まで水が溜る状況であった。帯郭Aの東側の平場に、常に水が溜った凹みがあったとの談話が地権者より得られたが、今回はその場所は確認されなかった。また、城跡の東端裾部に古くから井戸跡と呼ばれている場所がある。現在は井戸として利用されていないが、戦前頃までは日照りが続き、水不足になった時、この井戸を掘れば水が湧き、現在も利用しようとするれば可能であるとの談話も付近住民から得られた。この井戸跡も久慈城に関連する遺構となる可能性がある。

(4) 調査結果

1調査区 (第32図)

位置 主郭の南側から東側にかけて帯郭Aが廻っており、1調査区は、帯郭Aの東側の平場の中央やや北東寄りに3m四方の方形の調査区を設定した。現地表面より約15~20cmで地山のII層に達する。主郭においては砂岩層が地山となるが、本調査区では黄褐色シルト層が地山である。

出土遺物 本調査区において遺構は検出されなかった。II層検出面より、白磁の破片が1点出土した(第35図1)。

2調査区 (第33図)

位置 2調査区は、1調査区を設定した帯郭A東側の平場の南縁部から帯郭Bの平坦面に至るまでの斜面に、幅1m、長さ9.3mの調査区を設定した。

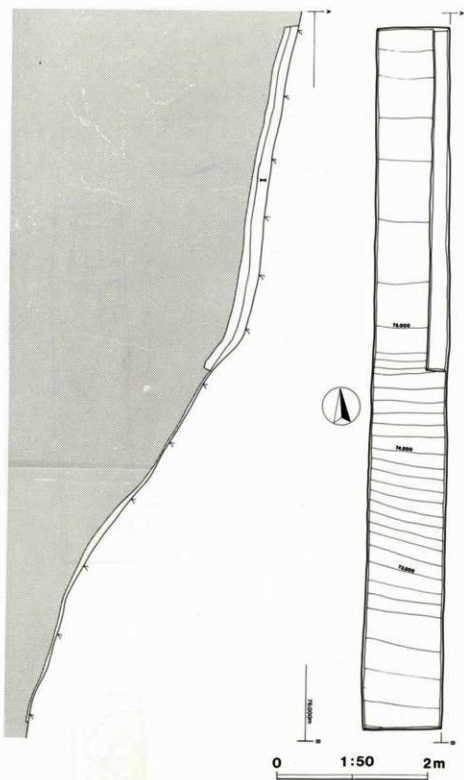
現地表面から約15cmで地山であるII層に達する。帯郭の縁辺部における柵列等の痕跡の存在が予想されたが、遺構は検出されなかった。盛り土等の整地がなされたかどうか確認するため調査区内西辺側にサブトレンチを設け約10cm掘り下げたが、それらしきものは確認されなかった。本調査区からは、遺物は出土しなかった。

3調査区 (第34図)

位置 3調査区は、主郭中央部付近において、幅1m、長さ8.5mの長方形に設定した。調査区内の途中に立木があったため途中1.7mは除外した。

本調査区からは、柱穴5基が検出された。

柱穴 1 柱穴1・2は重複しており、柱穴2を柱穴1が切っている。柱穴1は、南東側が調査区外であるが、方形プランを呈するものと推定される。北西~南東74cm+α、北東~南西93cm+α、



1・2調査区層位

層位	土色	土性	密度	硬さ	混入物	その他
I	10Y R $\frac{1}{2}$ 黒褐色	シルト	疏	軟	腐食土、フカフカ	
II	10Y R $\frac{1}{2}$ 黄褐色	シルト	やや密	やや堅	地山	

第33図 2調査区

久慈城跡基本層序

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
I	10YR _{5/2} 黒褐色	シルト	硬	軟	腐食土、フカフカ	
II	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	カーボン粒(φ5~3mm)1%, サクサク	
III	10YR _{5/2} 黄褐色	砂質	密	堅	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒	前面に広がる、酸化部分チタガ

3調査区 柱穴1

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
A1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)5%	
A2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)3%, 上層より中硬密	
A3	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)3%, 上層よりめ細かい	
B1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	密	中硬	10YR _{5/2} 褐色状粘質土30%, 酸化鉄粒(φ5~10mm)10%	

3調査区 柱穴2

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
C1	5YR _{5/2} 赤褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)80%	
C2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)10%	
C3	10YR _{5/2} 黄褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)30%	
C4	10YR _{5/2} 黄褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)60%, C1層に類似	
D1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)2%	
D2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)3%	
E1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 褐色状粘質土20%	
E2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 褐色状粘質土40%	

3調査区 柱穴4

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
A1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	酸化鉄粒(φ5~10mm)5%	
B1	10YR _{5/2} にぶい黄褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 灰黄褐色砂60%, 5YR _{5/2} 暗赤褐色酸化鉄質ブロック(φ10~20mm)20%	
B2	10YR _{5/2} にぶい黄褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 灰黄褐色砂60%, 5YR _{5/2} 暗赤褐色酸化鉄質ブロック(φ10~20mm)30%	
B3	10YR _{5/2} にぶい黄褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 灰黄褐色砂60%, 5YR _{5/2} 暗赤褐色酸化鉄質ブロック(φ10~20mm)20%	
B4	10YR _{5/2} にぶい黄褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 灰黄褐色砂60%, 5YR _{5/2} 暗赤褐色酸化鉄質ブロック(φ10~20mm)20%	
C1	10YR _{5/2} にぶい黄褐色	砂質	密	堅	10YR _{5/2} 灰黄褐色砂70%, 5YR _{5/2} 暗赤褐色酸化鉄質ブロック(φ10~20mm)30%	

3調査区

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
D1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 褐色砂10%	

4調査区 柱穴7

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
A1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 灰黄褐色砂ブロック(φ20mm)3%, カーボン粒(φ2~3mm)1%	
A2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 灰黄褐色砂ブロック(φ20mm)1%	
B1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	密	中硬	10YR _{5/2} 灰黄褐色砂ブロック(φ20mm)10%, 10YR _{5/2} 黄褐色砂質土10%(埋山崩壊土)	

4調査区 柱穴8

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
A1	10YR _{5/2} 暗褐色	砂質	中硬	中軟	カーボン粒(φ2~3mm)1%	
A2	10YR _{5/2} 暗褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 褐色砂質土10%	
B1	10YR _{5/2} 暗褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 褐色砂質土2%	
C1	10YR _{5/2} 暗褐色	砂質	中硬	中軟		
B2	10YR _{5/2} 暗褐色	砂質	中硬	中軟		

4調査区 柱穴9

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
D1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒(φ10~20mm)3%	
D2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒(φ10~20mm)5%	
D3	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒(φ10~20mm)2%	
E1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟		
F1	10YR _{5/2} 黄褐色	砂質	中硬	中軟		

4調査区 柱穴10

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
C1	10YR _{5/2} 暗褐色	砂質	中硬	中軟		
C2	10YR _{5/2} 暗褐色	砂質	中硬	中軟		上層より中硬密
D1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟		
D2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟		

4調査区 柱穴11

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
E1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒(φ5mm)1%	
E2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒(φ5~10mm)10%	
F1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒(φ5mm)3%下に多い	
G1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒(φ5~10mm)5%	
H1	10YR _{5/2} 黄褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 褐色砂質粘質ブロック(φ5~20mm)30%	ザラザラ

4調査区 柱穴12

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
A1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒(φ2~5mm)3%	
A2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	5YR _{5/2} 赤褐色酸化鉄粒(φ2~5mm)1%	
B1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 灰黄褐色砂20%	

4調査区 柱穴14

層位	土色	土性	密度	堅さ	混入物	その他
A1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	カーボン粒(φ2~5mm)2%	
A2	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	カーボン粒(φ2~5mm)1%	
B1	10YR _{5/2} 褐色	砂質	中硬	中軟	10YR _{5/2} 褐色砂質粘質ブロック(φ5~10mm)20%	

深さ64cmを測る。

- 柱穴 2** 柱穴2は、北東側を柱穴1に切られ、南東側は調査区外である。東～西80cm、南～北90cm + α 、深さ83cmを測る。底面は、東～西30cm、南～北28cmを測る。柱穴2において、E1層から拳大の礫が1点、D1層から古銭が1点出土した(第35図5)。古銭は北宋銭で、熙寧元寶(1068年初鑄)である。また、基石と思われる扁平小円礫が埋土から出土したが、柱穴1、2いずれに伴うものか判然としなかった(第35図3)。
- 柱穴 3** 柱穴3は、埋土に粉砕した砂岩が多く含まれており、今回の調査で検出された他の柱穴とは埋土の状況が異なっていた。砂岩を残して掘り下げることが不可能であったため、検出のみにとどまった。北東半分は調査区外であるが、開口部の平面規模は85cm程度と推定される。
- 柱穴 4** 柱穴4・5は重複しており、柱穴5を柱穴4が切っている。柱穴4は、南東側は調査区外である。北西～南東65cm + α 、北東～南西102cm、深さ90cmを測る。平面プランは方形乃至は長方形を呈するものと推定される。底面は方形プランを呈する。北東側壁に段が設けられており、段までの深さは64cmである。
- 柱穴 5** 柱穴5は、柱穴4によって南西側を切られており、南東側は調査区の外であるため詳細は不明であるが、方形乃至は長方形を呈するものと推定される。深さ17cmを計る。
柱穴4・5から遺物は出土しなかった。

4調査区(第34図)

- 位置** 4調査区は、主郭中央付近、3調査区南側に幅1.8m、長さ3.5mの長方形に設定した。本調査区からは9基の柱穴が検出された。
柱穴6と柱穴7、柱穴8と柱穴9、柱穴10と柱穴11、柱穴12と柱穴13はそれぞれ重複している。それぞれの新旧関係は、柱穴7を柱穴6が切り、柱穴9を柱穴8が切り、柱穴11を柱穴10が切り、柱穴13を柱穴12が切る。
- 柱穴 6** 柱穴6は北西～南東50cm、北東～南西60cmの長方形プランを呈し、深さ64cmを測る。底面は北西～南東50cm、北東～南西60cmを測り、方形プランを呈する。北東及び南東の壁に段が設けられている。段までの深さは検出面から37cmである。
- 柱穴 7** 柱穴7は、東側を柱穴6に切られ、西側は調査区外であるため全容は判然としなが、方形乃至は長方形の平面プランを呈するものと推定される。北西～南東42cm + α 、北東～南西30cm + α 、深さ46cmを測る。
- 柱穴 8** 柱穴8は、東側が柱穴9と重複している。西側は調査区外である。東～西65cm + α 、南～北77cm + α 、深さ53cmを測る。平面プランは南北にやや長い長方形を呈する。底面は20cm四方の方形を呈する。A1層から陶器片が1点出土した(第35図2)。器種は皿の類と思われ、口縁部の小破片である。また、埋土下位より礫が1点出土した。
- 柱穴 9** 柱穴9は、西側を柱穴8に切られている。東～西46cm + α 、南～北74cm、深さ55cmを測る。底面は25cm四方の方形を呈する。埋土下位より礫が1点出土した。
- 柱穴 10** 柱穴10は、東側コーナー部が柱穴11と重複し、柱穴11を切っている。北西～南東50cm、北東～南西55cmを測り、北東から南西にやや長い長方形プランを呈する。深さは40cmを測る。埋土より拳大から長さ35cm程度の円礫が5点出土した。柱穴の壁付近から出土し、中央部には認め

られないことから、柱を建てた後、穴を埋める際に込められたものと推定される。

柱穴11は、西側コーナー一部を柱穴10に切られている。北西～南東55cm、北東～南西55cmを測り方形プランを呈する。深さは75cmを測る。柱穴は南東側半分のみを掘り北西はセクション面を残したまま埋め戻した。従って、北西側半分の構造は不明である。北東及び南東の壁に段が設けられている。段までの深さは検出面から35cmである。底面は北東～南西は35cm、北西～南東も同規模と推定され、方形プランを呈するものと思われる。

柱穴 11

柱穴12は、北側で柱穴13と重複し、柱穴13を切っている。南西側は一部調査区外である。東～西は38cm、南～北は38cm+ α 、深さ48cmを測る。底面は方形プランを呈する。

柱穴 12

柱穴13は、南側を柱穴12に切られている。東～西35cm、南～北22cm+ α 、深さ40cmを測る。底面は方形プランを呈する。

柱穴 13

柱穴14は、調査区南隅より検出され、南東壁及び南西壁の上端は調査区外のため未検出である。北西～南東32cm+ α 、北東～南西35cm+ α 、深さ52cmを測る。底面は方形プランを呈する。埋土より礫が2点出土した。

柱穴 14

また、本調査区北東辺際の遺構検出面から無銘銭1点、東コーナー部の遺構検出面から砥石1点が出土したが遺構に伴うものではない(第35図4、6)。

出土遺物

(5) ま と め

試掘調査の結果、3調査区から5基、4調査区からは9基の柱穴が検出されたが、柱穴の重複が確認されたこと、柱穴が近接していること、柱穴の規模にばらつきがあること等から、建物の建て替えが行なわれたことが認められた。特に、4調査区においては、検出された9基の柱穴のうち、同一の建物に伴うものとして捉えられる柱穴は、柱穴6と柱穴11である。規模、平面形及び柱穴内に極めて類似した段を有する等の共通点が認められる。柱穴6、11はそれぞれ柱穴1、7と重複しており、柱穴6は柱穴7を切っていることから柱穴6・柱穴11より古い時期の建物が存在し、柱穴11は柱穴10に切られていることから柱穴6・柱穴11より新しい時期の建物が存在し、柱穴1、6、7、11の新旧関係から3回の建て替えが行なわれたことが認められた。また、これらの柱穴と近接し、異なる方向を向く柱穴も検出されており、この柱穴は柱穴1、6、7、11に伴う建物とは別の建物に伴う柱穴と考えられるため、建て替えの回数はさらに増えるものと思される。

柱穴の重複

建て替え

今回は限られた範囲での調査であったため、建物の存在は確認されたが、建物の全体の規模等については不明である。主郭においては前述したとおり、ボーリング探査から他にも多数の遺構が存在することが予想されるし、主郭以外においても、調査区を拡大すれば遺構の存在の確認は十分予想される。遺物も少量であるが出土したが、明確に時期を知ることができない小破片であった。今後の調査の機会を待ちたい。

また、参考資料として、久慈城跡出土と伝えられる十文字槍を工藤常夫氏が所蔵しており、借用し掲載した(第36図)。出土地点は不明であるが、明治以前に出土したものと伝えられている。刃部にわずかに刃こぼれが認められるものの、ほぼ完形品である。長さ49.4cm、幅13.3cm、厚さ1.4cmを計る。基部は長さ32.6cmで、断面形は長方形を呈し、槍身寄りに目釘穴がある。重量は223gである。

参考資料

註1 『久慈市史』第一巻 久慈市史編纂委員会 昭和1984年

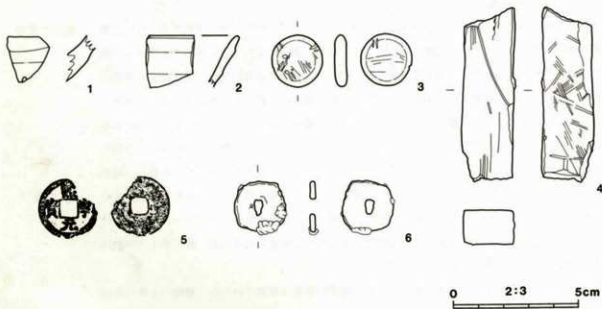
*『拱待久慈家譜』は、久慈氏の支流である拱待久慈家の拱待一治(宗碩)が、久慈備前守18代直治の嫡寿光禪尼と、一治の女治品から聞きおいたものをまとめ正徳6年(1716年)に一治77歳のとき編纂したもの。

註2 『南部叢書』第二巻 歴史図書社 1970年

註3 『参考諸家系図』第一巻 国書刊行会 1984年

註4 岩手史叢第四巻『内史閣』(4) 岩手県文化財愛護協会 1974年

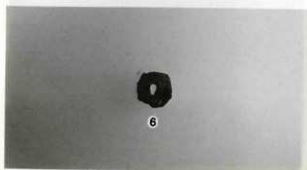
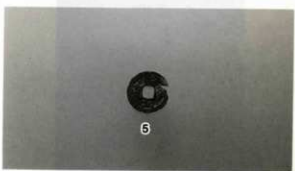
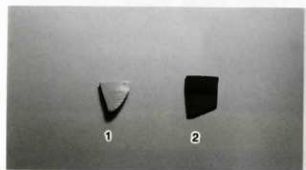
註5 『南部叢書』第二巻 歴史図書社 1970年



番号	出土地点	器種	備考	写真図版
1	1調査区 II層	白磁 器種不明	体部小破片	第18図版 1
2	4調査区 柱穴 8 A1層	Ⅲ? 陶器	無輪 灰色 ロクロ目	第18図版 2

番号	出土地点	器種	計測値(単位cm)			重量 (単位g)	材質	写真図版	備考
			長さ	幅	厚さ				
3	4調査区 II層	砥石	7.0	2.1	1.4	42.4	粘板岩	第18図版 4	
4	3調査区 柱穴 1・2 埋土	基石	2.1	2.0	0.5	2.4	頁岩	第18図版 3	
5	3調査区 柱穴 2 D1層	古銭 (熙寧元寶)	2.4	2.4	0.1	(1.6)	銅	第18図版 5	北宋銭
6	4調査区 II層	無銘銭	2.0	2.0	0.2	2.1	鉄	第18図版 6	

第35図 久慈城跡出土遺物



第18図版 久慈城跡出土遺物



1 調査区 (東より)



2 調査区 (北より)



2 調査区 (南より)



2 調査区 (北西より)



3 調査区 (東より)



3 調査区柱穴1・2 (東より)



3 調査区柱穴2 遺物出土状況



3調査区 (西より)



3調査区柱穴4・5 (東より)



3調査区柱穴3検出状況 (南より)



4調査区柱穴検出状況 (北より)



4調査区 (南より)



4調査区 (北より)



4調査区柱穴6・7 (東より)



4調査区柱穴8・9セクション (南より)



4調査区柱穴8・9 (北東より)



4調査区柱穴10・11セクション (南より)



4調査区柱穴10 曝出土状況 (南より)



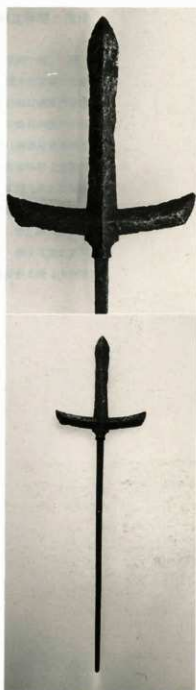
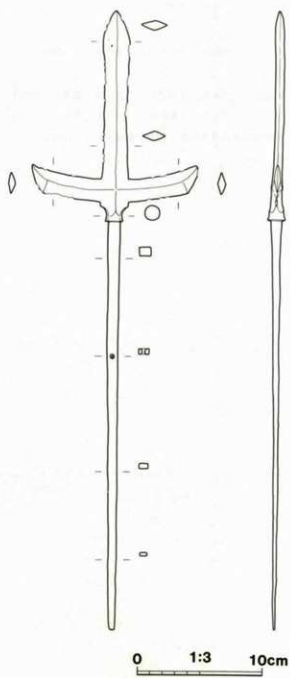
4調査区柱穴12・13 (南東より)



4調査区柱穴14 (東より)



3・4調査区遠景 (南東より)



第36圖 久慈城跡出土參考資料

引用・参考文献

- 照井一明 「陸中海岸北部地域の海岸段丘と古流系」岩手県高等学校教育研究会地理部会 1982年
『久慈市の指定文化財』久慈市教育委員会 1989年
『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ』久慈市埋蔵文化財調査報告書第12集 久慈市教育委員会 1990年
『久慈市内遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ』久慈市埋蔵文化財調査報告書第13集 久慈市教育委員会 1991年
『岩手県中世城館跡分布調査報告書』岩手県文化財調査報告書第82集 岩手県教育委員会 1986年
『九戸郡史』岩手県教育会九戸郡部会編 復刻版 1986年
『日本城郭大系』第2巻 新人物往来社 1980年
『二戸郡・九戸郡古城館跡考』築部善次郎 東北民俗研究会 1971年
『岩手県史』第三巻 中世篇下 岩手県 1961年
『九戸地方史』上巻 森嘉兵衛 九戸地方史刊行会 1969年
『久慈市史』第5巻資料編Ⅱ 久慈市史編纂委員会 1987年

久慈市埋蔵文化財調査報告書 第14集
久慈市内遺跡詳細分布調査報告書 Ⅲ

平成4年3月発行

発行 久慈市教育委員会

〒032 岩手県久慈市川崎町1-1

TEL (0194)52-2111

印刷 有限会社 九戸印刷

岩手県久慈市長内町24-10-13

TEL (0194) 52-1113

